

文教福祉常任委員会会議記録

日 時 令和元年7月9日（火曜日）

午前 9時30分 開議

場 所 水戸市議会 全員協議会室

午後 零時 6分 散会

付託事件

(1) 所管事務調査

1 本日の会議に付した事件

(1) 各課の事務分掌及び令和元年度主要事務事業の概要について

(2) その他

2 出席委員（7名）

委 員 長	鈴 木 宣 子 君	副 委 員 長	綿 引 健 君
委 員	土 田 記 代 美 君	委 員	木 本 信 太 郎 君
委 員	後 藤 通 子 君	委 員	袴 塚 孝 雄 君
委 員	田 口 米 蔵 君		

3 欠席委員（なし）

4 委員外議員出席者（2名）

議 長	安 藏 栄 君	議 員	須 田 浩 和 君
-----	---------	-----	-----------

5 説明のため出席した者の職、氏名

副 市 長	秋 葉 宗 志 君		
保健福祉部長 兼福祉事務 所 長	大 曾 根 明 子 君	保健福祉部 副 部 長 兼 福祉事務 所 副 所 長	田 中 誠 一 君
保健福祉部 技 監	前 田 亨 君	福祉事務所 参 事 兼 福祉総務課長	小 山 忠 君
福祉事務所 参 事 兼 子ども課長	柴 崎 佳 子 君	保健福祉部 参 事 兼 国保年金課長	川 津 英 臣 君
生活福祉課長	櫻 井 学 君	障害福祉課長	平 澤 健 一 君
高齢福祉課長	野 口 奈 津 子 君	介護保険課長	荻 沼 学 君
保健センター 所 長	小 林 か お り 君	保健所準備 課 長	小 林 秀 一 郎 君
消 防 長	小 泉 直 紀 君	消 防 次 長	石 川 隆 君
消防本部参事	鈴 木 豊 君	消防本部参事	小 林 光 宏 君

北消防署長	大	内	康	弘	君	南消防署長	勝	村	俊	則	君
消防総務課長	箕	輪	重	美	君	火災予防課長	櫻	井	祐	一	君
消防救助課長	青	木		剛	君	救急課長	石	田	宏	一	君
教 育 長	本	多	清	峰	君	教 育 部 長	増	子	孝	伸	君
教育委員会 事務局教育部 参事	橋		義	孝	君	教育委員会 事務局教育部 参事兼 教育企画課長	三	宅		修	君
教育委員会 事務局教育部 参事兼 幼児教育課長	鈴	木		功	君	教育委員会 事務局教育部 参事兼放課後 児童課長	菊	池	浩	康	君
総合教育研究 所 長	萩	谷	孝	男	君	学校管理課長	鎮	目	英	俊	君
学校保健給食 課 長	大	和	敦	子	君	学校施設課長	和	田	英	嗣	君
生涯学習課長	野	澤	昌	永	君	歴史文化財 課 長	白	石	嘉	亮	君
中央図書館長	松	本		崇	君	総合教育 研究所副所長	小	川	佐	栄子	君
6 事務局職員出席者											
議 事 課 長	永	井	誠	一	君	書 記	嘉	成	将	大	君

午前 9時30分 開議

○鈴木委員長 おはようございます。

定足数に達しておりますので、ただいまから文教福祉委員会を開会いたします。

それでは、議事に入ります前に、役付職員の紹介を行います。

なお、さきの委員会において当委員会出席の役付職員につきましては既に紹介を行っておりますので、本日は委員会出席者を除く役付職員の紹介を願います。

それでは、役付職員配置図に沿って順次紹介をお願いします。

○小山福祉事務所参事兼福祉総務課長 それでは、福祉総務課の役付職員を紹介させていただきます。

同和対策担当副参事の小園江雄一でございます。

○小園江福祉総務課副参事 小園江でございます。

○小山福祉事務所参事兼福祉総務課長 プレミアム付商品券担当副参事の介川忠明でございます。

○介川福祉総務課副参事 介川でございます。

○小山福祉事務所参事兼福祉総務課長 課長補佐の石丸美佳でございます。

○石丸福祉総務課長補佐 石丸でございます。

○小山福祉事務所参事兼福祉総務課長 政策係長の安見知浩でございます。

○安見政策係長 安見でございます。

○小山福祉事務所参事兼福祉総務課長 社会係長の岡田真奈実でございます。

○岡田社会係長 岡田でございます。

○小山福祉事務所参事兼福祉総務課長 ふれあいの館館長の小林恵美子でございます。

○小林ふれあいの館館長 小林でございます。

○小山福祉事務所参事兼福祉総務課長 以上、よろしくお願いいたします。

○櫻井生活福祉課長 続きまして、生活福祉課役付職員の御紹介をいたします。

処遇困難担当副参事、國井敦男でございます。

○國井生活福祉課副参事 國井でございます。よろしくお願いいたします。

○櫻井生活福祉課長 内部点検担当副参事、須藤正樹でございます。

○須藤生活福祉課副参事 須藤でございます。

○櫻井生活福祉課長 課長補佐の中嶋純一でございます。

○中嶋生活福祉課長補佐 中嶋でございます。

○櫻井生活福祉課長 同じく課長補佐の平山康司でございます。

○平山生活福祉課長補佐 平山でございます。

○櫻井生活福祉課長 同じく課長補佐の柳橋剛でございます。

○柳橋生活福祉課長補佐 柳橋でございます。

○櫻井生活福祉課長 管理係長の木村佳典でございます。

○木村管理係長 木村でございます。

○櫻井生活福祉課長 保護第1係長の川村隆でございます。

- 川村保護第1係長 川村でございます。
- 櫻井生活福祉課長 保護第2係長の荻純一でございます。
- 荻保護第2係長 荻でございます。
- 櫻井生活福祉課長 保護第3係長の安藤康一でございます。
- 安藤保護第3係長 安藤でございます。
- 櫻井生活福祉課長 保護第4係長、塚本和浩につきましては、公務により欠席でございます。
保護第5係長、東中須良子でございます。
- 東中須保護第5係長 東中須でございます。
- 櫻井生活福祉課長 保護第6係長、大内寿施でございます。
- 大内保護第6係長 大内でございます。
- 櫻井生活福祉課長 保護第7係長、加藤木宏志でございます。
- 加藤木保護第7係長 加藤木でございます。
- 櫻井生活福祉課長 以上、どうぞよろしくお願いいたします。
- 平澤障害福祉課長 続きまして、障害福祉課の役付職員を御紹介申し上げます。
課長補佐の深谷浩一でございます。
- 深谷障害福祉課長補佐 深谷でございます。
- 平澤障害福祉課長 課長補佐兼子ども発達支援センター所長、館美代子でございます。
- 館障害福祉課長補佐兼子ども発達支援センター所長 館でございます。
- 平澤障害福祉課長 管理係長、大縄幸江でございます。
- 大縄管理係長 大縄でございます。
- 平澤障害福祉課長 認定係長、片桐博史でございます。
- 片桐認定係長 片桐でございます。
- 平澤障害福祉課長 給付係長、井原真彌でございます。
- 井原給付係長 井原でございます。
- 平澤障害福祉課長 以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。
- 野口高齢福祉課長 続きまして、高齢福祉課の役付職員を御紹介させていただきます。
地域支援センター所長の土屋勝でございます。
- 土屋地域支援センター所長 土屋でございます。
- 野口高齢福祉課長 課長補佐の宮本一也でございます。
- 宮本高齢福祉課長補佐 宮本でございます。
- 野口高齢福祉課長 管理係長の佐々木瑛でございます。
- 佐々木管理係長 佐々木でございます。
- 野口高齢福祉課長 高齢福祉係長の美齊津論代でございます。
- 美齊津高齢福祉係長 美齊津でございます。
- 野口高齢福祉課長 地域支援事業係長の成田拓生でございます。

- 成田地域支援事業係長 成田でございます。
- 野口高齢福祉課長 介護予防係長の畔野洋一でございます。
- 畔野介護予防係長 畔野でございます。
- 野口高齢福祉課長 高齢者支援係長の森田仲代でございます。
- 森田高齢者支援係長 森田でございます。
- 野口高齢福祉課長 以上、よろしくお願いいたします。
- 柴崎福祉事務所参事兼子ども課長 続きまして、子ども課の役付職員を紹介いたします。
課長補佐の永盛光郎でございます。
- 永盛子ども課長補佐 永盛でございます。
- 柴崎福祉事務所参事兼子ども課長 子育て支援係長の倉川健一でございます。
- 倉川子育て支援係長 倉川でございます。
- 柴崎福祉事務所参事兼子ども課長 相談係長の窪庭友介でございます。
- 窪庭相談係長 窪庭でございます。
- 柴崎福祉事務所参事兼子ども課長 以上、よろしくお願いいたします。
- 川津保健福祉部参事兼国保年金課長 続きまして、国保年金課の役付職員を御紹介いたします。
副参事の飯島智でございます。
- 飯島国保年金課副参事兼課長補佐 飯島でございます。
- 川津保健福祉部参事兼国保年金課長 同じく副参事の清水圭子でございます。
- 清水国保年金課副参事兼課長補佐 清水でございます。
- 川津保健福祉部参事兼国保年金課長 管理係長の佐藤修司でございます。
- 佐藤管理係長 佐藤でございます。
- 川津保健福祉部参事兼国保年金課長 医療給付係長の弓野光昭でございます。
- 弓野医療給付係長 弓野でございます。
- 川津保健福祉部参事兼国保年金課長 国保税係長の小野田定礼でございます。
- 小野田国保税係長 小野田でございます。
- 川津保健福祉部参事兼国保年金課長 後期高齢者医療係長の矢ノ倉のり子でございます。
- 矢ノ倉後期高齢者医療係長 矢ノ倉でございます。
- 川津保健福祉部参事兼国保年金課長 国民年金係長の高久純でございます。
- 高久国民年金係長 高久でございます。
- 川津保健福祉部参事兼国保年金課長 以上、どうぞよろしくお願いいたします。
- 荻沼介護保険課長 続きまして、介護保険課の役付職員を紹介させていただきます。
課長補佐の太田礼子でございます。
- 太田介護保険課長補佐 太田でございます。
- 荻沼介護保険課長 同じく課長補佐の鯉渕紀子でございます。
- 鯉渕介護保険課長補佐 鯉渕でございます。

○荻沼介護保険課長 給付係長の山内一豊でございます。

○山内給付係長 山内でございます。

○荻沼介護保険課長 認定係長の谷田部元子でございます。

○谷田部認定係長 谷田部でございます。

○荻沼介護保険課長 保険係長の木村陽子でございます。

○木村保険係長 木村でございます。

○荻沼介護保険課長 指導係長、古保学につきましては、現在、茨城県への実務派遣中でございますので、本日欠席とさせていただきます。御了承ください。

以上です。どうぞよろしくお願いいたします。

○小林保健センター所長 続きまして、保健センターの役付職員の御紹介をいたします。

技正の加瀬林和恵でございます。

○加瀬林保健センター技正 加瀬林でございます。

○小林保健センター所長 地域医療対策室長の堀野辺直でございます。

○堀野辺地域医療対策室長 堀野辺でございます。

○小林保健センター所長 次長の加藤浩でございます。

○加藤保健センター次長 加藤でございます。

○小林保健センター所長 同じく次長の龍田晴美でございます。

○龍田保健センター次長 龍田でございます。

○小林保健センター所長 管理係長の高久満知子でございます。

○高久管理係長 高久でございます。

○小林保健センター所長 予防衛生係長の関根明子でございます。

○関根予防衛生係長 関根でございます。

○小林保健センター所長 母子保健係長の青野朱実でございます。

○青野母子保健係長 青野でございます。

○小林保健センター所長 健康増進係長の谷津洋子でございます。

○谷津健康増進係長 谷津でございます。

○小林保健センター所長 常澄保健センター所長の杉田道代でございます。

○杉田常澄保健センター所長 杉田でございます。

○小林保健センター所長 内原保健センター所長の高安克子でございます。

○高安内原保健センター所長 高安でございます。

○小林保健センター所長 以上、どうぞよろしくお願いいたします。

○小林保健所準備課長 続きまして、保健所準備課の役付職員の紹介をさせていただきます。

課長補佐の太田和成でございます。

○太田保健所準備課長補佐 太田でございます。

○小林保健所準備課長 準備係長の寺門比子でございます。

- 寺門準備係長 寺門でございます。
- 小林保健所準備課長 以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。
- 箕輪消防総務課長 それでは、消防本部消防総務課の役付職員を御紹介させていただきます。
副参事の猿田純夫でございます。
- 猿田消防総務課副参事 猿田でございます。
- 箕輪消防総務課長 課長補佐の柄井益幸でございます。
- 柄井消防総務課長補佐 柄井でございます。
- 箕輪消防総務課長 総務係長の石川淳でございます。
- 石川総務係長 石川でございます。
- 箕輪消防総務課長 以上、よろしくお願いいたします。
- 櫻井火災予防課長 続きまして、火災予防課の役付職員を紹介いたします。
課長補佐の河原井豊でございます。
- 河原井火災予防課長補佐 河原井でございます。
- 櫻井火災予防課長 予防係長の莊司智裕でございます。
- 莊司予防係長 莊司でございます。
- 櫻井火災予防課長 査察係長の川津貞徳でございます。
- 川津査察係長 川津でございます。
- 櫻井火災予防課長 違反対策係長の大津伸一でございます。
- 大津違反対策係長 大津でございます。
- 櫻井火災予防課長 以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。
- 青木消防救助課長 続きまして、消防救助課役付職員を御紹介いたします。
副参事、梶山正美でございます。
- 梶山消防救助課副参事 梶山でございます。
- 青木消防救助課長 補佐、栗原政人でございます。
- 栗原消防救助課長補佐 栗原でございます。
- 青木消防救助課長 同じく補佐、雲藤尊範でございます。
- 雲藤消防救助課長補佐 雲藤でございます。
- 青木消防救助課長 同じく補佐、遠藤正雄でございます。
- 遠藤消防救助課長補佐 遠藤でございます。
- 青木消防救助課長 消防救助係長、笹沼博行でございます。
- 笹沼消防救助係長 笹沼でございます。
- 青木消防救助課長 指令センター係長、稲川博邦でございます。
- 稲川指令センター係長 稲川でございます。
- 青木消防救助課長 通信係長、鈴木茂でございます。
- 鈴木通信係長 鈴木でございます。

- 青木消防救助課長 以上、よろしくお願いします。
- 石田救急課長 続きまして、救急課の役付職員を御紹介いたします。
- 課長補佐の軍司剛志でございます。
- 軍司救急課長補佐 軍司でございます。
- 石田救急課長 救急係長の木村一宏でございます。
- 木村救急係長 木村でございます。
- 石田救急課長 以上でございます。よろしくお願いいたします。
- 大内北消防署長 続きまして、北消防署の役付職員を紹介させていただきます。
- 副署長の太信成人でございます。
- 太信北消防署副署長 太信でございます。
- 大内北消防署長 副参事の星毅雄でございます。
- 星北消防署副参事 星でございます。
- 大内北消防署長 副署長補佐の大塚芳行でございます。
- 大塚北消防署副署長補佐 大塚でございます。
- 大内北消防署長 同じく副署長補佐の長瀬昌宏でございます。
- 長瀬北消防署副署長補佐 長瀬でございます。
- 大内北消防署長 庶務係長の久保田充でございます。
- 久保田庶務係長 久保田でございます。
- 大内北消防署長 消防救助係長の江橋浩でございます。
- 江橋消防救助係長 江橋でございます。
- 大内北消防署長 救急係長の飯塚隆でございます。
- 飯塚救急係長 飯塚でございます。
- 大内北消防署長 飯富出張所長の中山浩明でございます。
- 中山飯富出張所長 中山でございます。
- 大内北消防署長 赤塚出張所長、大図宏一につきましては、所用のため欠席でございます。
- 桜の牧出張所長、横山弘実でございます。
- 横山桜の牧出張所長 横山でございます。
- 大内北消防署長 内原出張所長の立原成人でございます。
- 立原内原出張所長 立原でございます。
- 大内北消防署長 城里出張所長の佐藤浩三でございます。
- 佐藤城里出張所長 佐藤でございます。
- 大内北消防署長 以上、よろしくお願いいたします。
- 勝村南消防署長 続きまして、南消防署役付職員を御紹介いたします。
- 副署長の植木和弘でございます。
- 植木南消防署副署長 植木でございます。

- 勝村南消防署長 副参事の根本寿之でございます。
- 根本南消防署副参事 根本でございます。
- 勝村南消防署長 副署長補佐の安賢一でございます。
- 安南消防署副署長補佐 安でございます。
- 勝村南消防署長 同じく副署長補佐の高島和巳でございます。
- 高島南消防署副署長補佐 高島でございます。
- 勝村南消防署長 庶務係長の寺田信夫でございます。
- 寺田庶務係長 寺田でございます。
- 勝村南消防署長 消防救助係長の板倉満でございます。
- 板倉消防救助係長 板倉でございます。
- 勝村南消防署長 救急係長の鈴木広寿でございます。
- 鈴木救急係長 鈴木でございます。
- 勝村南消防署長 城東出張所長の白田浩でございます。
- 白田城東出張所長 白田でございます。
- 勝村南消防署長 緑岡出張所長の飯田健でございます。
- 飯田緑岡出張所長 飯田でございます。
- 勝村南消防署長 住吉出張所長，菅谷剛でございます。
- 菅谷住吉出張所長 菅谷でございます。
- 勝村南消防署長 常澄出張所長，寺門弘道でございます。
- 寺門常澄出張所長 寺門でございます。
- 勝村南消防署長 以上，よろしくお願いいたします。
- 三宅教育委員会事務局教育部参事兼教育企画課長 続きまして，教育企画課の役付職員を御紹介いたします。
課長補佐の堀晴子でございます。
- 堀教育企画課長補佐 堀でございます。
- 三宅教育委員会事務局教育部参事兼教育企画課長 総務係長の武井俊夫でございます。
- 武井総務係長 武井でございます。
- 三宅教育委員会事務局教育部参事兼教育企画課長 企画係長の安田理恵でございます。
- 安田企画係長 安田でございます。
- 三宅教育委員会事務局教育部参事兼教育企画課長 以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。
- 鎮目学校管理課長 続きまして，学校管理課の役付職員を御紹介いたします。
副参事兼課長補佐の上田航也でございます。
- 上田学校管理課副参事 上田でございます。
- 鎮目学校管理課長 学校管理係長の長谷川正幸でございます。
- 長谷川学校管理係長 長谷川でございます。

- 鎮目学校管理課長 学事係長の小田倉誠でございます。
- 小田倉学事係長 小田倉でございます。
- 鎮目学校管理課長 以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。
- 大和学校保健給食課長 続きまして、学校保健給食課の役付職員を紹介いたします。
- 課長補佐の島田顕範でございます。
- 島田学校保健給食課長補佐 島田でございます。
- 大和学校保健給食課長 学校給食共同調理場長の菊池精一でございます。
- 菊池学校給食共同調理場長 菊池でございます。
- 大和学校保健給食課長 管理係長の橋本裕子でございます。
- 橋本管理係長 橋本でございます。
- 大和学校保健給食課長 給食係長の木村善枝でございます。
- 木村給食係長 木村でございます。
- 大和学校保健給食課長 以上、よろしくお願いいたします。
- 鈴木教育委員会事務局教育部参事兼幼児教育課長 幼児教育課の役付職員を紹介いたします。
- 幼児教育課課長補佐の森田信行でございます。
- 森田幼児教育課長補佐 森田でございます。よろしくお願いいたします。
- 鈴木教育委員会事務局教育部参事兼幼児教育課長 同じく課長補佐の菅原功雄でございます。
- 菅原幼児教育課長補佐 菅原です。よろしくお願いいたします。
- 鈴木教育委員会事務局教育部参事兼幼児教育課長 緑岡幼稚園園長、綿引紀子でございます。
- 綿引緑岡幼稚園長 綿引でございます。
- 鈴木教育委員会事務局教育部参事兼幼児教育課長 国田幼稚園園長、海老原夏代子でございます。
- 海老原国田幼稚園長 海老原でございます。
- 鈴木教育委員会事務局教育部参事兼幼児教育課長 酒門幼稚園園長、田所敏子につきましては、公務出張のため欠席しております。
- 続きまして、笠原幼稚園園長、和地久美子でございます。
- 和地笠原幼稚園長 和地でございます。
- 鈴木教育委員会事務局教育部参事兼幼児教育課長 白梅保育所所長、池田牧子につきましては、本身体調不良のため欠席をしております。
- 続きまして、杉山保育所所長、藤咲眞智子でございます。
- 藤咲杉山保育所長 藤咲でございます。
- 鈴木教育委員会事務局教育部参事兼幼児教育課長 新原保育所所長、雨谷由香里でございます。
- 雨谷新原保育所長 雨谷でございます。
- 鈴木教育委員会事務局教育部参事兼幼児教育課長 緑岡保育所所長、青木恵美子でございます。
- 青木緑岡保育所長 青木でございます。
- 鈴木教育委員会事務局教育部参事兼幼児教育課長 城東保育所所長、松本千鳥でございます。

- 松本城東保育所長 松本でございます。
- 鈴木教育委員会事務局教育部参事兼幼児教育課長 平須保育所所長，高野美津子でございます。
- 高野平須保育所長 高野でございます。
- 鈴木教育委員会事務局教育部参事兼幼児教育課長 よろしく願いいたします。
- 続きまして，渡里保育所所長，大島祐子でございます。
- 大島渡里保育所長 大島でございます。
- 鈴木教育委員会事務局教育部参事兼幼児教育課長 若宮保育所所長，叶野康子でございます。
- 叶野若宮保育所長 叶野でございます。
- 鈴木教育委員会事務局教育部参事兼幼児教育課長 河和田保育所所長，沼尻啓子でございます。
- 沼尻河和田保育所長 沼尻でございます。
- 鈴木教育委員会事務局教育部参事兼幼児教育課長 双葉台保育所所長，塙佳代子でございます。
- 塙双葉台保育所長 塙でございます。
- 鈴木教育委員会事務局教育部参事兼幼児教育課長 一の牧保育所所長，柴崎輝子でございます。
- 柴崎一の牧保育所長 柴崎でございます。
- 鈴木教育委員会事務局教育部参事兼幼児教育課長 常澄保育所所長兼稲荷第一幼稚園園長，小野英子でございます。
- 小野常澄保育所所長兼稲荷第一幼稚園園長 小野でございます。
- 鈴木教育委員会事務局教育部参事兼幼児教育課長 内原保育所所長兼内原幼稚園園長，清水明子でございます。
- 清水内原保育所所長兼内原幼稚園園長 清水でございます。
- 鈴木教育委員会事務局教育部参事兼幼児教育課長 続いて，幼児教育課運営管理係長，内田理恵でございます。
- 内田運営管理係長 内田でございます。
- 鈴木教育委員会事務局教育部参事兼幼児教育課長 入園入所係長，平澤尚子でございます。
- 平澤入園入所係長 平澤でございます。
- 鈴木教育委員会事務局教育部参事兼幼児教育課長 施設給付係長，鈴木敦子でございます。
- 鈴木施設給付係長 鈴木でございます。
- 鈴木教育委員会事務局教育部参事兼幼児教育課長 以上，よろしく願いいたします。
- 和田学校施設課長 続きまして，学校施設課の役付職員を御紹介いたします。
- 課長補佐，神長央でございます。
- 神長学校施設課長補佐 神長でございます。
- 和田学校施設課長 経理係長，小林雅史でございます。
- 小林経理係長 小林でございます。
- 和田学校施設課長 施設係長，小林修一でございます。
- 小林施設係長 小林でございます。

- 和田学校施設課長 以上でございます。よろしくお願いいたします。
- 野澤生涯学習課長 続きまして、生涯学習課の役付職員を御紹介させていただきます。
社会同和教育担当副参事の菊池俊英でございます。
- 菊池生涯学習課副参事 菊池でございます。
- 野澤生涯学習課長 副参事兼課長補佐の山田規生でございます。
- 山田生涯学習課副参事兼課長補佐 山田でございます。
- 野澤生涯学習課長 副参事兼みと好文カレッジ所長の鈴木秀樹でございます。
- 鈴木生涯学習課副参事兼みと好文カレッジ所長 鈴木でございます。
- 野澤生涯学習課長 副参事兼少年自然の家所長の湯澤康一でございます。
- 湯澤生涯学習課副参事兼少年自然の家所長 湯澤でございます。
- 野澤生涯学習課長 課長補佐兼三の丸市民センター所長の車田一史でございます。
- 車田生涯学習課長補佐兼三の丸市民センター所長 車田でございます。
- 野澤生涯学習課長 同じく五軒市民センター所長の藤井裕一郎でございます。
- 藤井生涯学習課長補佐兼五軒市民センター所長 藤井でございます。
- 野澤生涯学習課長 同じく新荘市民センター所長の細谷潤につきましては、公務のため欠席でございます。
同じく城東市民センター所長の大峰正美でございます。
- 大峰生涯学習課長補佐兼城東市民センター所長 大峰でございます。
- 野澤生涯学習課長 同じく竹隈市民センター所長の大澤秀樹でございます。
- 大澤生涯学習課長補佐兼竹隈市民センター所長 大澤でございます。
- 野澤生涯学習課長 同じく常磐市民センター所長の白田美由紀につきましては、本日体調不良のため欠席でございます。
同じく緑岡市民センター所長の野上冬樹でございます。
- 野上生涯学習課長補佐兼緑岡市民センター所長 野上でございます。
- 野澤生涯学習課長 同じく課長補佐兼寿市民センター所長の浅野一志でございます。
- 浅野生涯学習課長補佐兼寿市民センター所長 浅野でございます。
- 野澤生涯学習課長 同じく上大野市民センター所長の蛭田智則でございます。
- 蛭田生涯学習課長補佐兼上大野市民センター所長 蛭田でございます。
- 野澤生涯学習課長 同じく柳河市民センター所長の笹島武でございます。
- 笹島生涯学習課長補佐兼柳河市民センター所長 笹島でございます。
- 野澤生涯学習課長 同じく渡里市民センター所長の高岡英寿でございます。
- 高岡生涯学習課長補佐兼渡里市民センター所長 高岡でございます。
- 野澤生涯学習課長 同じく吉田市民センター所長の山田斉でございます。
- 山田生涯学習課長補佐兼吉田市民センター所長 山田でございます。
- 野澤生涯学習課長 同じく酒門市民センター所長の井上雄策でございます。
- 井上生涯学習課長補佐兼酒門市民センター所長 井上でございます。

- 野澤生涯学習課長 同じく石川市民センター所長の青木浩子でございます。
- 青木生涯学習課長補佐兼石川市民センター所長 青木でございます。
- 野澤生涯学習課長 同じく飯富市民センター所長の弓野保でございます。
- 弓野生涯学習課長補佐兼飯富市民センター所長 弓野でございます。
- 野澤生涯学習課長 同じく国田市民センター所長の木村清美でございます。
- 木村生涯学習課長補佐兼国田市民センター所長 木村でございます。
- 野澤生涯学習課長 同じく桜川市民センター所長の五上正嗣でございます。
- 五上生涯学習課長補佐兼桜川市民センター所長 五上でございます。
- 野澤生涯学習課長 課長補佐兼上中妻市民センター所長の斉藤博之でございます。
- 斉藤生涯学習課長補佐兼上中妻市民センター所長 斉藤でございます。
- 野澤生涯学習課長 同じく山根市民センター所長の藤枝一典でございます。
- 藤枝生涯学習課長補佐兼山根市民センター所長 藤枝でございます。
- 野澤生涯学習課長 同じく見川市民センター所長の所畑智美でございます。
- 所畑生涯学習課長補佐兼見川市民センター所長 所畑でございます。
- 野澤生涯学習課長 同じく千波市民センター所長の関根英紀でございます。
- 関根生涯学習課長補佐兼千波市民センター所長 関根でございます。
- 野澤生涯学習課長 同じく見和市民センター所長の須能剛志でございます。
- 須能生涯学習課長補佐兼見和市民センター所長 須能でございます。
- 野澤生涯学習課長 同じく双葉台市民センター所長の鈴木克明でございます。
- 鈴木生涯学習課長補佐兼双葉台市民センター所長 鈴木でございます。
- 野澤生涯学習課長 同じく笠原市民センター所長の山田和久でございます。
- 山田生涯学習課長補佐兼笠原市民センター所長 山田でございます。
- 野澤生涯学習課長 同じく赤塚市民センター所長の藪田照美でございます。
- 藪田生涯学習課長補佐兼赤塚市民センター所長 藪田でございます。
- 野澤生涯学習課長 同じく吉沢市民センター所長の入野高司でございます。
- 入野生涯学習課長補佐兼吉沢市民センター所長 入野でございます。
- 野澤生涯学習課長 同じく堀原市民センター所長の谷津賢一でございます。
- 谷津生涯学習課長補佐兼堀原市民センター所長 谷津でございます。
- 野澤生涯学習課長 課長補佐兼下大野市民センター所長の長谷川仁でございます。
- 長谷川生涯学習課長補佐兼下大野市民センター所長 長谷川でございます。
- 野澤生涯学習課長 同じく稲荷第一市民センター所長の加藤木長生でございます。
- 加藤木生涯学習課長補佐兼稲荷第一市民センター所長 加藤木でございます。
- 野澤生涯学習課長 同じく稲荷第二市民センター所長の飯村博史でございます。
- 飯村生涯学習課長補佐兼稲荷第二市民センター所長 飯村でございます。
- 野澤生涯学習課長 同じく大場市民センター所長の久米茂でございます。

- 久米生涯学習課長補佐兼大場市民センター所長 久米でございます。
 - 野澤生涯学習課長 同じく鯉淵市民センター所長の久野智之でございます。
 - 久野生涯学習課長補佐兼鯉淵市民センター所長 久野でございます。
 - 野澤生涯学習課長 同じく妻里市民センター所長の藤咲一臣でございます。
 - 藤咲生涯学習課長補佐兼妻里市民センター所長 藤咲でございます。
 - 野澤生涯学習課長 同じく内原市民センター所長の神原俊幸でございます。
 - 神原生涯学習課長補佐兼内原市民センター所長 神原でございます。
 - 野澤生涯学習課長 社会教育係長の田沢一憲でございます。
 - 田沢社会教育係長 田沢でございます。
 - 野澤生涯学習課長 青少年育成係長の鎌田洸一でございます。
 - 鎌田青少年育成係長 鎌田でございます。
 - 野澤生涯学習課長 みと好文カレッジ指導係長の橋本純子につきましては、公務のため欠席でございます。
- 以上、よろしくお願いいたします。
- 白石歴史文化財課長 続きまして、歴史文化財課の役付職員を御紹介いたします。
- 副参事兼埋蔵文化財センター所長の川口武彦でございます。
- 川口歴史文化財課副参事兼埋蔵文化財センター所長 川口でございます。
 - 白石歴史文化財課長 副参事兼博物館長兼大塚農民館長の関口慶久でございます。
 - 関口歴史文化財課副参事兼博物館長兼大塚農民館長 関口でございます。
 - 白石歴史文化財課長 課長補佐兼内原郷土史義勇軍資料館長の金光智之でございます。
 - 金光歴史文化財課長補佐兼内原郷土史義勇軍資料館長 金光です。
 - 白石歴史文化財課長 文化財係長の薄井俊平でございます。
 - 薄井文化財係長 薄井でございます。
 - 白石歴史文化財課長 世界遺産推進室世界遺産係長の藤尾隆志でございます。
 - 藤尾世界遺産係長 藤尾でございます。
 - 白石歴史文化財課長 博物館学芸係長の鈴木雅人でございます。
 - 鈴木学芸係長 鈴木でございます。
 - 白石歴史文化財課長 以上、よろしくお願いいたします。
 - 菊池教育委員会事務局教育部参事兼放課後児童課長 それでは、放課後児童課の役付職員を御紹介いたします。
- 課長補佐兼開放学級係長の黒須雅継でございます。
- 黒須放課後児童課長補佐兼開放学級係長 黒須でございます。
 - 菊池教育委員会事務局教育部参事兼放課後児童課長 管理係長の相沢秀幸でございます。
 - 相沢管理係長 相沢でございます。
 - 菊池教育委員会事務局教育部参事兼放課後児童課長 以上、よろしくお願いいたします。
 - 松本中央図書館長 それでは、中央図書館の役付職員を紹介いたします。

副参事兼副館長の大平高生でございます。

○大平中央図書館副参事兼副館長 大平でございます。

○松本中央図書館長 管理係長の中宮健之でございます。

○中宮管理係長 中宮でございます。

○松本中央図書館長 図書係長の柳橋敬子でございます。

○柳橋図書係長 柳橋です。

○松本中央図書館長 以上、よろしくお願いいたします。

○小川総合教育研究所副所長 それでは、総合教育研究所の役付職員を御紹介いたします。

副参事兼学校教育指導係長の矢口智之でございます。

○矢口総合教育研究所副参事兼学校教育指導係長 矢口でございます。

○小川総合教育研究所副所長 副参事兼研究研修係長の蓮沼邦彦でございます。

○蓮沼総合教育研究所副参事兼研究研修係長 蓮沼でございます。

○小川総合教育研究所副所長 副参事兼支援相談係長の玉井康浩でございます。

○玉井総合教育研究所副参事兼支援相談係長 玉井でございます。

○小川総合教育研究所副所長 管理係長の三好正高でございます。

○三好管理係長 三好でございます。

○小川総合教育研究所副所長 以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○鈴木委員長 以上で役付職員の紹介を終わります。

それでは、これより議事に入ります。

初めに、各課の事務分掌及び令和元年度主要事務事業の概要について、順次説明をお願いします。

それでは、保健福祉部からお願いいたします。

○大曾根保健福祉部長兼福祉事務所長 保健福祉部の事務分掌及び令和元年度主要事務事業の概要につきまして御説明申し上げます。

保健福祉部提出資料をお開き願います。

なお、資料にページを記載してございませんでした。大変申しわけございませんでした。

保健福祉部の事務分掌につきましては、ページをおめくりいただきまして、記載のとおりでございます。

また、組織体制につきましては、部全体で9課2室38係、職員定数254名の体制で事務執行に当たっております。

それでは、主要事務事業につきまして、各所管の課長より説明させていただきます。よろしくお願いいたします。

○小山福祉事務所参事兼福祉総務課長 続きまして、資料の3枚目の福祉総務課の令和元年度主要事務事業の概要について説明いたします。

初めに、1の地域福祉の推進につきましては、水戸市地域福祉計画（第2次）に基づき、支え合い、助け合う市民参加による地域福祉の推進を図っておりますが、本年度、計画期間が終了することから、新たな第3次計画の策定を進めております。

2の社会福祉法人の設立認可、指導監督等事務につきましては、平成25年4月に茨城県から権限が委譲され、社会福祉法人の設立認可、指導監督等を行っており、現在所管法人は33法人となっております。

3の都市宣言策定事務につきましては、来年4月の中核市移行に合わせ、健康をテーマとした都市宣言を行うための事務を進めております。

4の民生（児童）委員活動につきましては、民生委員法に基づく欠員補充等の委嘱に関する事務のほか、民生委員活動への支援を行っており、本年12月1日付で3年に一度の一斉改選が行われる予定でございます。

5の遺族援護事務につきましては、遺族に対する各種援護法に基づく援護措置の手続や相談のほか、水戸市遺族会への補助や水戸市戦没者追悼式を開催するもので、今年度は10月18日金曜日、ザ・ヒロサワ・シティ会館での開催を予定しております。

6のプレミアム付商品券事業につきましては、10月からの消費税率の引き上げに合わせ、消費に与える影響を緩和し、地域における消費を喚起、下支えすることを目的に、全額国の補助を受けて、低所得者、3歳未満の子を持つ世帯主を対象とするプレミアム付商品券を販売するものでございます。

以上でございます。

○櫻井生活福祉課長 続きまして、生活福祉課の令和元年度主要事務事業の概要について御説明いたします。

ページをお返しいただきたいと思います。

初めに、1の生活保護事業でございます。これは、生活困窮者に対して必要な保護を行い、最低限度の生活を保障するとともに、その自立を助長するものでございます。平成31年3月31日現在、被保護世帯数4,120世帯、被保護者数5,378名となっております。

次に、2の生活困窮者自立支援事業でございます。これは、生活保護に至る前の段階の生活困窮者に対する支援を行うものでございます。現在、生活困窮者からの相談を受け付け必要な支援につなげていく自立相談支援事業のほか、離職者等に対して家賃相当額を支給する住宅確保給付金の支給、生活困窮世帯の子どもたちに学習支援や居場所づくりを行う学習支援事業の3事業を実施しております。

次に、3の中国残留邦人等支援給付事業でございます。これは、中国残留邦人等とその配偶者で世帯の収入が一定の基準に満たない者に対して生活費や住宅費等の支援給付を行うものでございます。本年4月1日現在、5世帯8名となっております。

以上でございます。

○平澤障害福祉課長 続きまして、生活福祉課の次のページ、右側のページ、障害福祉課のページをごらんいただきたいと思います。

障害福祉課の令和元年度事務事業の概要につきまして御説明を申し上げます。

初めに、1の水戸市手話言語その他の障害の特性に応じた意思疎通手段の利用の促進に関する条例関連事業でございますが、条例の制定に基づきまして、障害者の意思疎通手段に対する理解の促進等に関連する事業を実施するものでございます。

次に、2の合理的配慮の提供を支援する助成制度でございますが、民間事業者等における障害者に対する合理的配慮の提供に対しまして、必要なものの作成、購入等への費用の助成を実施し、障害者差別解消に対

する理解の促進を図るものでございます。

次に、３の障害福祉施設の管理運営につきましては、指定管理者制度に基づき１１の施設の管理運営を３法人に委託して実施するものでございます。

次に、４の障害者自立支援給付事業と５の障害児福祉事業につきましては、それぞれの法律に基づき、障害者及び障害児に対して福祉サービスを提供するものでございます。

次に、６の子ども発達支援センター運営事業につきましては、発達に心配のある１８歳までの児童及びその保護者に対し、グループ療育や個別の言語指導、障害福祉サービスの相談、申請事務等を行い、お子様の発達を支援するものでございます。

説明は以上でございます。

○野口高齢福祉課長 それでは、ページをお返してください。

続きまして、令和元年度高齢福祉課の主要事務事業につきまして御説明いたします。

初めに、高齢者福祉対策として、在宅見守り安心システムや通院等支援サービスなど、援護を必要とする在宅高齢者の生活を支援する事業と、高齢者クラブや敬老会開催団体への助成など、生きがい対策の事業を実施しております。

次に、施設福祉対策につきましては、老人福祉センター及び開江養護老人ホームを水戸市社会福祉協議会を指定管理者として管理運営を行っているほか、特別養護老人ホームの整備促進に努めております。また、施設福祉対策のうち、（仮称）西部老人福祉センターの整備については、建設地として河和田３丁目の旧河和田保育所跡地を選定し、今年度から測量、地質調査、基本・実施設計に着手し、令和５年度の供用開始を目指し整備を進めてまいります。

地域支援事業につきましては、介護予防・生活支援サービス事業として、介護を要する状態になることを防ぎ、自立した生活を保持するための介護予防教室を実施するほか、住民主体の生活支援サービスを実施するボランティア団体等への活動補助を行っております。

一般介護予防事業は、全ての高齢者を対象に、元気アップ・ステップ運動教室などを実施することにより、介護予防の知識を普及啓発するものです。

次に、包括的支援事業については、高齢者が住みなれた地域で安心して生活できるよう支援する機関である高齢者支援センターを基幹型１カ所と日常生活圏ごとに８カ所設置、また、医療機関と介護事業所の連携の推進や認知症総合支援などを実施しております。

最後に、任意事業といたしまして、家族介護用品の給付事業や、地域や中学校などにおいて認知症サポーターの養成講座を実施しております。

以上でございます。

○柴崎福祉事務所参事兼子ども課長 続きまして、次の右側のページの子ども課の主要事務事業の概要につきまして御説明申し上げます。

まず、１の子ども・子育て支援事業につきましては、平成２７年度を初年度とする子ども・子育て支援事業計画に基づき、各事業の充実を図るものでございます。子ども課所管の主な事業といたしまして、地域子育て支援拠点事業ほか、記載の各事業を実施しております。

次に、2の子育て支援・多世代交流センターの運営につきましては、子育て支援と多世代交流を推進するための拠点施設でございます大町の「わんぱく・みと」及び本町の「はみんぐぱく・みと」を指定管理者制度により運営しており、指定管理者は公益社団法人水戸市シルバー人材センターでございます。

3の児童手当支給事業及び4の児童扶養手当支給事業につきましては、子育て世帯やひとり親世帯等の経済的負担軽減により、児童の健全な育成を図るため、児童を養育する保護者等に法に基づき手当を支給するものです。受給資格者数はそれぞれごらんのとおりでございます。

5の女性・DV相談事業及び6の家庭児童相談事業につきましては、子ども課相談係にケースワーカー、女性相談員及び家庭児童相談員を配置いたしまして、女性の抱える諸問題や子どもの養育に関する相談、指導のほか、DV防止、児童虐待防止に向けた啓発等を一体的に行っております。

説明は以上でございます。

○川津保健福祉部参事兼国保年金課長 続きまして、次ページの国保年金課の令和元年度主要事務事業の概要について御説明いたします。

初めに、国民年金事業につきましては、国からの法定受託事務といたしまして、自営業者や農業等を営んでいる方、学生などの第1号被保険者に係る資格の取得や喪失の届け出、保険料の免除や年金請求に係る申請書などの受理、相談などを行っております。

次に、2の医療福祉事業につきましては、県の補助事業を活用いたしまして、妊産婦、子ども等に対しまして、医療費の一部を助成しております。このうち子どもの医療費助成につきましては、市単独事業といたしまして、未就学児の所得制限を撤廃しているほか、中学生の外来に係る医療費を助成し、充実を図っているところでございます。さらに、本年10月から小中学生の入院、外来及び18歳までの子どもの入院に係る医療費助成について所得制限を撤廃する予定でございます。

3の国民健康保険事業につきましては、被用者保険や後期高齢者医療に加入していない自営業者や農業等を営んでいる方などを対象とする医療保険でございます。制度改正により、平成30年度から都道府県が財政運営の責任主体となりました。これによりまして、市町村の主な役割といたしましては、被保険者の資格管理、医療給付や高額療養費などの保険給付、保険税率の決定、保険税の賦課徴収、このほか徴収した保険税額等を財源といたしまして、都道府県に国民健康保険事業費納付金を納付することとなっております。

4及び5の後期高齢者医療に関する事業につきましては、75歳以上の方などを対象した医療保険で、茨城県後期高齢者医療広域連合が運営しております。市町村は、保険料の徴収、被保険者の加入・脱退等の各種届け出の受け付け、保険料の納付書や被保険者証の送付事務などを行っております。

以上でございます。

○荻沼介護保険課長 恐れ入ります、右側のページをよろしく願いいたします。

介護保険課の令和元年度主要事務事業について御説明いたします。

1の介護保険事業につきましては、水戸市第7期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に基づきまして、介護保険制度の運営を図るものでございます。歳入の主なものといたしましては、65歳以上の方の――第1号被保険者と呼ばせていただいておりますが、こちらの保険料でございます。歳出のほうで主な事業といたしまして、65歳以上の方の保険料の賦課徴収、また、要介護認定でございます。今年度1万

2,600件を予定しております。

また、保険給付費につきましては、本年度216億円ほど、内訳につきまして主なものをごらんとお表示してございます。

また、適正なサービス提供に資する事業といたしまして、その下の介護相談員派遣事業、1組2人体制で計3組で定期的な施設の訪問等を行ってございます。

また、介護給付費適正化事業といたしましては、適正な保険給付を確保するため、居宅介護支援事業所等のケアプラン点検等を実施してございます。

また、地域密着型サービス事業所及び居宅介護支援事業所につきましては、本年度66事業所につきまして実地指導を予定してございます。

2の社会福祉法人等軽減措置につきましては、社会福祉法人によります低所得者の利用者負担軽減に対する補助を行っておりまして、居宅サービス及び介護老人福祉施設の利用者負担を25%軽減しようというものでございます。

3の高齢者福祉施設に対する整備支援といたしましては、高齢者福祉施設開設準備事業補助金等を交付し、ごらの事業所につきまして、24時間切れ目のないサービス提供のために公募等により補助をもって整備を推進しているところでございます。

介護保険課からは以上でございます。

○小林保健センター所長 続きまして、ページをお返してください。

保健センターの主要事務事業の概要につきまして御説明いたします。

1の母子保健事業につきましては、母子保健法及び水戸市子ども・子育て支援事業計画に基づき、妊娠・出産、乳幼児の健康づくり等にかかわる(1)から(4)までの事業、母子手帳の交付や各種健診等を実施しております。

次に、2の健康づくり推進事業につきましては、食生活改善推進員による地域住民の健康づくりを推進するとともに、健康づくりガイドブックの作成など、市民の健康意識の啓発を図ってまいります。

3の健康増進事業につきましては、健康増進法に基づきまして、健康診査やがん検診、健康相談など、各種保健事業を行っております。

4の地域自殺対策事業につきましては、自殺対策計画に基づき、自殺予防のための相談事業やゲートキーパー養成などを行っております。

5の特定健診等事業は、高齢者の医療の確保に関する法律に基づく特定健診や高齢者健診を実施するほか、人間ドック補助や国民健康保険データヘルス計画に基づく糖尿病性腎症重症化予防などの保健事業を実施しております。

6は予防接種法に基づき実施しております乳幼児等を対象にした予防接種でございます。

7の感染症予防事業につきましては、感染症予防法に基づき、結核健診を実施しております。

8の狂犬病予防事業につきましては、狂犬病予防法に基づき、狂犬病予防接種等を実施するほか、犬の不妊手術費等に対する助成を行っております。

続きまして、次のページをごらんください。

9は笠原にあります保健センター内に設置しております水戸市休日夜間緊急診療所の運営でございます。
休日診療は、日曜・祝日及び年末年始、夜間診療は毎日、水戸市医師会の御協力により開設をしております。

10の地域医療事業につきましては、地域の医療提供体制確保のため医師確保策として、医師修学資金貸与などのほか、公的病院等への運営補助、定住自立圏事業などを行うものでございます。

11は、中核市移行に向けて移譲事務の最も多い保健所事務につきまして、茨城県等と協議、調整をしながら円滑な事務移譲ができるよう準備を進めているものでございます。

説明は以上でございます。

○小林保健所準備課長 続きまして、ページを返していただきまして、保健所準備課の令和元年度主要事務事業の概要について説明させていただきます。

1の（仮称）水戸市保健所整備事業につきましては、令和2年4月の中核市移行に伴いまして開設します本市保健所の施設整備の事業といたしまして、保健センターの改修及び増築棟の建設工事等を実施するものでございます。

2の（仮称）水戸市動物愛護センター整備事業につきましては、本市の動物愛護センターの施設整備事業といたしまして、旧療育センター既存棟の改修及び増築棟の建設工事等を実施するものでございます。

3の保健所開設準備業務につきましては、保健所開設に向けた専門職の人材確保・育成、茨城県との移譲事務の調整、例規整備、システム整備等を実施するものでございます。

以上でございます。

○小泉消防長 続きまして、消防本部の事務分掌及び主要事務事業の概要について御説明をさせていただきます。

恐れ入りますが、消防本部提出の1ページのほうをお開き願います。

消防本部の事務分掌につきましては、1ページから2ページに記載のとおりでございます。

また、組織体制につきましては、部全体で4課2署9出張所14係、職員定数341名の体制で業務に当たっております。

それでは、主要事務事業につきましては、各所属の課長より説明をさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○箕輪消防総務課長 それでは、令和元年度主要事務事業の概要につきまして、消防総務課から順次御説明させていただきます。

3ページをごらん願います。

南消防署移転改築事業といたしまして、予算額9,400万円を計上いたしております。事業の概要でございますが、南消防署移転改築に伴う基本設計、実施設計及び地質調査業務の委託に要する経費でございます。

消防総務課については以上でございます。

○櫻井火災予防課長 続きまして、4ページの火災予防課、令和元年度主要事務事業につきまして御説明いたします。

1の消防法令違反対象物の是正事業の一つといたしまして、現在、違反対象物に係る公表制度を実施して

おります。消防法令に関する重大な違反の建物を公表することにより、市民等の火災被害の軽減を図るとともに建物の所有者等に対し、消防用設備等の適切な設置、促進を図るものでございます。

次に、2の民間防火組織の育成指導事業につきましては、女性防火クラブ32クラブ、幼年消防クラブ31クラブの組織に対して、火災予防の基礎的な知識を指導しながら、家庭から火を出さない、火遊びはしないといったスローガンのもとに、地域の安全安心のため、火災予防の啓発に努めているところです。

なお、幼年消防クラブにつきましては、今年度さらに3カ所が結成予定となっております。

火災予防課につきましては以上でございます。

○青木消防救助課長 続きまして、消防救助課の事業につきまして御説明いたします。

1の消防団員免許取得補助事業でございます。消防団員が活動する上で必要な準中型自動車運転免許、または二級小型船舶操縦士免許を取得する経費を全額補助するものでございます。

2の消防水利整備事業でございますが、地域の実情に応じ、計画的に整備し、消防水利の充足率の向上に努め、災害時等に消火栓が使用不能となったときの消防水利の確保でございます。被害の軽減を図ることを目的とし、整備を進めているところでございます。

そして、3の消防機械力整備事業でございますが、更新対象車種ごとに使用状況、機能、劣化状況を判断して、車両更新計画に基づき計画的に更新を行うとしております。今回につきましては、城東出張所のポンプ車、北署のドクターカーでございます。

説明は以上でございます。

○石田救急課長 続きまして、6ページをお開き願います。

救急課の令和元年度主要事務事業の概要を御説明いたします。

1のワークステーション型ドクターカーシステム事業では1,000万円の予算を計上しております。事業は、水戸済生会総合病院と連携しドクターカーの運用及び病院実習を通じた救急隊員のスキルアップなど、救急業務の強化を図るものでございます。

2の応急手当普及啓発事業につきましては、950万円の予算を計上しております。事業は、水戸地区救急普及協会と連携し、AEDの普及促進や応急手当に関する講習会の開催などの事業を実施しております。

3のコンビニエンスストアAED整備事業につきましては450万円の予算を計上しております。事業は、AEDの利活用環境の充実を図るため、市内の全てのコンビニを対象にAEDを設置するものでございます。

説明は以上となります。

○増子教育部長 それでは、教育委員会の事務分掌及び主要事務事業の概要について、お手元に配付してございます教育委員会提出の資料により御説明いたします。

資料の1ページをお開き願います。

教育委員会の事務分掌は、1ページから3ページに記載のとおりでございまして、全体で10課1室6施設26係となっております。このほか13保育所、19幼稚園、48の小中学校、義務教育学校がございまして、約1,300人の県費負担教職員のほか、市職員351人の体制で事務執行に当たっています。

主要事務事業につきましては、各所管の課長より御説明いたします。

○三宅教育委員会事務局教育部参事兼教育企画課長 続きまして、資料の4ページをお開き願います。

教育企画課の主要事務事業の概要について御説明いたします。

1の教育事務の点検評価につきましては、教育委員会各課が所管しております事務を対象といたしまして、水戸市教育事務評価専門委員3人の知見を活用し、点検評価を行うものでございます。現在、平成30年度の点検評価を行っているところでございまして、その結果につきましては、報告書を作成し、議会に報告させていただきますとともに、ホームページ等で公表してまいりたいと考えております。

説明につきましては以上でございます。

○鎮目学校管理課長 教育委員会資料の5ページをごらん願います。

学校管理課の主要事務事業のうち、就学援助事業につきましては、経済的理由により就学が困難と認められる児童、生徒の保護者に対して、就学に必要な援助を行うものでございます。対象者につきましては、生活保護法に基づく要保護者及び本市の認定基準により要保護者に準ずる程度に困窮が認められる準要保護者でございます。準要保護者の認定基準につきましては、これまでは生活保護基準の1.4倍未満としておりましたが、生活保護基準の改定による影響が及ばないように、本年度から1.5倍未満に基準を改め、制度の充実を図ってございます。

説明は以上でございます。

○大和学校保健給食課長 続きまして、学校保健給食課の令和元年度主要事務事業の概要について御説明いたします。

初めに、1の学校給食費公会計事業につきましては、平成28年度から全小中学校で学校ごとに保護者から給食費を集めて運営する私会計から、市が給食費を徴収し、市の予算で運営する公会計に移行しております。予算につきましては、保護者から賄い材料費として徴収する給食費のおよそ10億3,460万円でございます。

次に、2の小学校給食調理等業務の民間活力活用の推進につきましては、学校給食における運営の効率化を図るために単独調理校29校のうち10校を民間委託しております。今後につきましても、保育所を含めた調理員の退職状況や配置状況を考慮しながら段階的に拡大してまいります。今年度の予算につきましては、委託料の1億6,650万円でございます。

次に、3の食育の推進につきましては、子どもの望ましい食習慣の形成に向け、児童、生徒を初め広く市民に開かれた食育活動に取り組むとともに、地場産物についての活用拡大を図ってまいります。食育推進事業費として、予算は学官連携などに伴う事業などのおよそ35万円でございます。

説明は以上でございます。

○鈴木教育委員会事務局教育部参事兼幼児教育課長 7ページをお開きいただきたいと思います。

幼児教育課の令和元年度主要事務事業の概要について御説明いたします。

1の民間保育施設整備事業でございますが、待機児童の解消の一つとして、民間事業者に対しまして、老朽化している既存施設について、定員増を伴う増改築事業を行う場合に施設の改築について補助を行うものでございます。また、近年では児童の声がうるさいなどの苦情が保育所近隣の住民から寄せられており、施設におきましては、地域との良好な関係や児童の質の高い保育環境を保っていくための対策といたしまして、防音壁の設置などが必要となっておりますことから、防音壁設置のための費用について補助を行うものでござ

ございます。

2の保育士確保事業でございますが、保育士不足が課題となっている現在、保育士の確保は重要でございます。保育士確保のため、ハローワークと連携し、保育士の就職説明会や保育士就労希望者を募り、保育の職場体験ツアーなどを組んでおります。保育士養成施設等の学校に出向いて直接学生に就職説明会を開催したり、新卒保育士や保育士資格を持ちながら就労していない、いわゆる潜在保育士の就労を支援するための補助金を交付する予定でございます。

3の保育所及び小規模保育事業等の運営でございますが、保護者の就労等により保育の必要な児童を受け入れるため、本市には公立保育所13カ所、民間保育所43カ所、そして3歳未満児を受け入れる小規模保育事業や家庭的保育事業がございます。年々希望者の増加や施設の増加により、これらの施設を運営するための運営費も増加しており、本年度は予算で86億円計上しております。

4の幼児教育・保育の無償化でございますが、本年10月から3歳以上の保育所と幼稚園の保育料が全て無償となります。3歳未満に関しましては、住民税非課税世帯を対象に無償化になる予定でございます。

説明については以上でございます。

○和田学校施設課長 続きまして、資料8ページをお開きください。

学校施設課の今年度の主要事務事業について御説明いたします。

当課の主な事業といたしましては、長寿命化改良事業、小中学校トイレ洋式化事業、そして、見川小学校改築事業の3点でございます。

初めに、1の長寿命化改良事業について御説明いたします。

計画概要といたしまして、近年、学校施設におきましては施設の老朽化が喫緊の課題となっており、その対応といたしまして、長寿命化改良事業を実施いたします。長寿命化改良事業では、現在の建物の構造体を変えずに内外壁や屋上の改修、電気や機械設備等のライフラインの更新など、建物の物理的なふぐあいを直し耐久性を高めることに加えまして、建物の機能面においても現在学校に求められております水準まで改修を行うものでございます。

今年度予定しております実施設計といたしましては、記載の学校についてそれぞれ実施設計業務委託を予定しております。また、工事につきましては、平成29年度より実施しております(1)吉田小学校の長寿命化改良事業でございますが、現在第1期の工事が進行中でございます。

次に、平成30年度より実施しております(2)上大野小学校の長寿命化改良事業につきましては、今年度工事に着手する予定でございます。

続きまして、2の小中学校トイレ洋式化事業について御説明いたします。

計画概要といたしましては、長寿命化改良事業と同様、施設の老朽化への対応が早急に求められており、快適な教育環境の実現に向けた取り組みとして、明るく清潔で使いやすい快適なトイレとなるよう、令和4年度までに小中学校校舎におけるトイレの洋式化率について100%を目指すものでございます。

事業概要といたしましては、各学校のトイレの状態を十分踏まえながら、既存の和式便器を撤去し、洋式便器に取りかえる工事や、配管の更新などが必要な場合にはトイレ箇所の大規模な改造を行い、洋式化を図るものでございます。

次に、3の見川小学校改築事業でございます。

計画概要でございますが、平成20年度に基本構想をまとめ、狹隘な敷地の有効活用を図る目的として、隣接している小学校、中学校、幼稚園について一体的に計画し、それぞれの施設の老朽化に対応するため、年次的に整備を進めております。

続いて、年次計画でございますが、既に中学校校舎、小中学校屋内運動場が完成しており、今年度小学校の新校舎建設工事に着手する予定でございます。

説明は以上でございます。

○野澤生涯学習課長 続きまして、9ページの生涯学習課主要事務事業につきまして御説明いたします。

1の市民センターにおける生涯学習事業の推進につきましては、市内34の市民センターの職員を対象に、生涯学習の役割や基礎知識、各種講座の開設手順等、職員としての力量を高めるため、市民センター所長や嘱託員を対象に集合研修を実施するとともに、各市民センターに出向き、事業を推進するに当たっての疑問に対する相談に応じるなどの訪問指導を実施しております。

また、現代的課題に関する学習プログラムの研究・開発等を行うほか、家庭教育の充実を図るため、子どもとの接し方講座や親子のふれあい体験、家庭教育講演会等を実施しております。

2の青少年健全育成事業の推進につきましては、少年の主張大会や中学生交流会等を開催するとともに、青少年育成団体等の支援や街頭補導などによる青少年の非行防止活動を実施しております。

3の少年自然の家の利用促進につきましては、これまで施設のリニューアル、活動プログラムの見直し等、利用促進のための取り組みを行ってまいりましたが、雨天時の活動が課題となっておりましたことから、今年度新たに天候不順時の天候観察会に対応するため、可搬式のプラネタリウムを導入することといたしました。今後におきましても、地域資源の活用など、さまざまな体験の機会を提供できるプログラムを検討してまいります。

説明は以上でございます。

○白石歴史文化財課長 続きまして、10ページをごらんください。

歴史文化財課の主要事務事業の概要について御説明いたします。

1の水戸城歴史的建造物復元整備事業につきましては、水戸城大手門、二の丸角櫓等の復元に向けた工事を行っております。大手門は平成28年度末に着工し、令和元年度までの工事予定で、大手門本体は本年9月末完成予定、瓦塀、練塀を含む外構につきましては、来年1月末完成予定でございます。大手門の完成記念式典や完成記念事業は、来年2月上旬の開催を予定しております。また、二の丸角櫓・土塀は、平成29年度末に着手したもので、令和2年度までの工事予定でございます。

2のヒカリモの保存・活用につきましては、備前町の市指定天然記念物ヒカリモの生息地調査を実施するものでございます。当該地はJR常磐線沿いに位置しているため、安全性の問題があり、一般公開できないため、観光資源として活用するには、培養等により誰にでも見ることが出来る場所に移す必要がございます。そのため専門家に意見を求めるほか、茨城生物の会の指導のもと、実態解明等の調査を実施してまいります。また、関係自治体との事務担当者勉強会の開催を目指してまいります。

3の日本遺産ブランド力向上事業につきましては、日本遺産である水戸の教育遺産群の情報発信拠点施設

として、旧水戸彰考館跡にある二の丸展示館の展示等をリニューアルするものでございます。水戸市は教育遺産をテーマに、栃木県足利市、岡山県備前市、大分県日田市との広域連携により、弘道館、偕楽園の世界遺産登録を目指しており、専門委員の先生方の協力を得ながら、共同提案書の作成を行っているところでございます。日本遺産として認定された弘道館、偕楽園等の価値や魅力を国内外に発信し、知名度を高め、世界遺産登録に向けた機運と郷土愛の醸成に努めるとともに、教育、観光の振興、地域ブランド力の向上をあわせて図ってまいります。

4の埋蔵文化財魅力発信企画展の開催につきましては、大串貝塚が縄文時代の貝塚として考古学界に広く認知されるようになってから130年の節目の年に当たりますことから、大串貝塚を初めとする市内の重要施設から発掘された埋蔵文化財の魅力を紹介する企画展を大串貝塚ふれあい公園にある埋蔵文化財センターにおいて開催するものでございます。

説明は以上でございます。

○菊池教育委員会事務局教育部参事兼放課後児童課長 それでは、11ページをごらんください。

放課後児童課の主要事務事業の概要について御説明いたします。

初めに1、開放学級事業につきましては、(1)から(3)の3つに区分して記載しております。

(1)の開放学級事業につきましては、保護者が日中就労等で家庭にいない児童について、放課後等に適切な遊び及び生活の場を与え、その健全な育成を図るものです。本市では本年度末までに6年生までの全ての対象児童を受け入れることを目標に開放学級の充実に努めております。現在33の全小学校67クラスで実施しております。

次に、(2)の開放学級民間活力活用モデル事業につきましては、今年度からモデル事業として梅が丘小学校の開放学級及び放課後子ども教室の運営を民間事業者へ委託しております。この委託化によりまして、昨年度末の待機児童は同校に33人おりましたが、本年度は解消しております。

次に、(3)の開放学級施設整備事業につきましては、稲荷第一小学校において、6年生までの全ての対象児童を受け入れるために開放学級専用棟を建設するものです。

次に、2、民間学童クラブ事業につきましては、事業の目的は開放学級と同じでございますが、社会福祉法人等が実施する民間学童クラブに対し、国・県・市が助成するものです。昨年度の12クラブから本年度は19クラブへと対象事業者を拡大しております。

最後に、3、放課後子ども教室事業につきましては、学校の教室等を利用し、児童の安全安心な居場所を設け、地域住民の参加を得ながら多様な体験、活動を行うことで、児童が心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進するものです。実施している内容は地域によってさまざまでございますが、自由遊びや木の実を使った工作、スポーツ活動など、幅広く地域で内容を考えていただいている状況です。

説明は以上です。

○松本中央図書館長 続きまして、中央図書館の令和元年度主要事務事業の概要について説明いたします。

資料の12ページをごらん願います。

1の学校図書館支援事業の推進につきましては、学校図書館の充実のため、支援員9名が小中義務教育学校全48校を巡回し、担当教諭等と連携のもと、学校図書館蔵書の整理や環境整備、また、選書アドバイス、

読書相談，授業における学習活動支援等を行ってまいります。また，学校図書館の資料のデータベース化を進めるとともに，蔵書管理システムを活用して蔵書管理業務の効率化を図ってまいります。

2の図書館資料，レファレンスサービスの充実につきましては，郷土・行政資料を初めとする図書館資料の充実を図るとともに，貴重資料につきましては電子化を行い，インターネット上で市民に公開してまいります。市民の多様な調査研究に資するため，事例集の公開等，レファレンスサービスの充実も図ってまいります。

3の子どもの読書活動の推進につきましては，子どもたちが読書に親しむことができるよう，水戸市子ども読書活動推進計画に基づき，親子で絵本事業，図書館ボランティアとの協働によるおはなし会，指定管理者による育児コンシェルジュの配置，託児サービスの実施など，各種事業を実施してまいります。

説明は以上でございます。

○小川総合教育研究所副所長 続きまして，資料13ページ，総合教育研究所の主要事務事業の概要につきまして御説明いたします。

本市におきましては，現在，水戸スタイルの教育として，資料1から4の4つのプランを推進しているところでございます。

初めに，チャレンジプランの推進について御説明いたします。

主な事業といたしましては，教員免許を持つ市費非常勤講師，学力向上サポーターを全校に計54人配置し，習熟度別学習等，個に応じた学習指導の充実を図っております。また，家庭学習スタートノートを小学校4年生全員に学期ごとに配布するとともに，中学校2，3年生の希望者を対象に長期休業期間中に数学・学習相談「SPOT in MITO」を実施するなど，みずから学ぶ意識の醸成を図るものでございます。

2，グローバルプランの推進につきましては，まず英語指導助手，AET39人を直接雇用し，全校に配置したり，オール・イン・イングリッシュ授業等を通して英会話によるコミュニケーション能力の育成を図るものでございます。また，ICTの活用やプログラミング教育の推進により，情報活用能力を育成するとともに，新たに防災リーダー育成コースを加えた次世代エキスパート育成事業を実施し，次世代リーダーの育成を図ってまいります。

3，キャリアプランの推進につきましては，水戸教学の学習やおもてなしボランティア活動など，郷土への理解と愛情を深める教育を推進するとともに，水戸芸術館と連携し，一流の芸術に直接触れることのできる芸術教育を推進するものでございます。さらに，船中泊を伴う自然教室や職場体験学習等の実施により，体験学習の充実を図ってまいります。

4，ふれあいプランの推進につきましては，水戸市いじめ防止基本方針に基づき，いじめの未然防止や早期発見・早期対応，いじめの解消を図るため，相談・支援体制の充実に努めるとともに，あいさつ運動やいじめ解決フォーラム等の実施により，思いやりの心の育成及び規範意識の醸成を図るものでございます。

最後に，5，特別支援教育の充実につきましては，発達障害等を含む障害のある幼児，児童，生徒が障害の状態や発達段階に応じて適切な教育を受けられるよう，公立幼稚園や学校に教育活動上のサポートを行う特別支援教育支援員の配置を行うとともに，幼稚園3園で通級による指導を行うなど，早期からの教育支援体制の充実に努めるものでございます。

説明は以上でございます。

○鈴木委員長 以上で執行部の説明は終わりました。

それでは、内容について御質問等がございましたら発言をお願いします。

木本委員。

○木本委員 御説明をありがとうございました。

まず、保健福祉部の生活保護事業についてお伺いしたいんですけども、予算額８６億８，１００万円ですかね。保育所の運営も８６億円だから、大体、保育所運営と生活保護、大体同じぐらいの予算８６億円で推移していると思うんですけども、近年、たしかリーマンショックのときでもかなり多額な８５億円ぐらいが１つ高くて、そこからずっと下がっていったイメージがあったんですけども、この８６億円というのだと大変高いなというイメージがあるんですけども、これもやっぱり近年の傾向として徐々に、こういった対象者が増加に転じてきて上がってきているというニュアンス、意味合いでよろしいんでしょうかね。その傾向についてちょっと教えてください。

○鈴木委員長 櫻井課長。

○櫻井生活福祉課長 ただいまの御質問にお答えいたします。

委員御指摘のようにリーマンショック以降落ちついてきていたところなんですけれども、昨年ですと約１２０世帯ふえておりまして、今後の高齢化とかそういった部分で高齢者世帯の生活保護の申請というものが今多い状況になってございます。

以上でございます。

○鈴木委員長 木本委員。

○木本委員 そうすると、そういった方がふえていくということで、１２０世帯の内訳は、やはりそれはほとんど高齢者ということでございますか。

○鈴木委員長 櫻井課長。

○櫻井生活福祉課長 そのうちの約半数以上が高齢者世帯となっております。

○鈴木委員長 木本委員。

○木本委員 プラスその扶助の内訳はどうですか。恐らく医療じゃないかと思うんですけども。

○鈴木委員長 櫻井課長。

○櫻井生活福祉課長 占める割合としては医療扶助が一番多くなってございます。そのほかに生活扶助という形で続いております。

○鈴木委員長 木本委員。

○木本委員 法律上、憲法上、これどうしても保護していかなくちゃいけないということでございますけれども、一方、生業扶助か、いわゆる働けるけれども、何か一応理由があって働けない方もこれでいくと１２０人いらっしゃるということでいいんですか、これ。

○鈴木委員長 櫻井課長。

○櫻井生活福祉課長 ただいまの御質問にお答えいたします。

生業扶助というものは、将来自立する上で必要な資格を取得する場合とか、そういったものに支給するも

のでございまして、例えば高校生が卒業して新たな就職先を見つけた場合、内定として、その条件の中で運転免許証が必要だとか、そういったものに支給するものになっております。

○鈴木委員長 木本委員。

○木本委員 わかりました。ありがとうございます。

いずれにしても必要な方々にはもちろん必要な方法でありますけれども、脱却できる可能性がある方にはしっかりと脱却してもらうという、この道筋をどうつけていくかということが大事だと思いますので、そこについては引き続き対応をお願いできればというふうに思っております。

〔発言する者あり〕

○木本委員 わかりました。ありがとうございます。

もう一点がですね、すみません、別で、保健センターにお伺いしたいんですけれども、詳しくなくて教えてもらいたいんですけれども、地域医療事業があります。もちろんこの医師の確保というのは大変大事な制度、努めだと思うんですけれども。この中に医療機関開設補助というのがあるんですけれども、ごめんなさい、この制度の詳細について、まずちょっと教えてもらっていいですか。

○鈴木委員長 小林所長。

○小林保健センター所長 ただいまの御質問にお答えいたします。

医療機関開設補助につきましては、平成30年度からの制度となりまして、小児科を開設した場合には3,000万円、それから産婦人科を市内に開設した場合には6,000万円を補助するというような制度となっております。

○鈴木委員長 木本委員。

○木本委員 ありがとうございます。

じゃ、その2つの科のみ対象ということでございますよね。そうすると、恐らく私たち文教福祉委員も医師会の方と意見交換すると、必ずその開設が何年もないという話も聞くんですけれども、これ実際に相談というのはあるんですか、このいわゆる補助事業に対する相談というのは。

○鈴木委員長 小林保健センター所長。

○小林保健センター所長 ただいまの御質問にお答えいたします。

現在までに具体的に相談というものはまだないような状況にございます。

○鈴木委員長 木本委員。

○木本委員 わかりました。

そうすると、あれですね、幾らお金をあげますといっても、そもそも人がいないという、そんなにも来ないという現状からすると、どういうふうに——要するに根本的な部分からやっていかなくちやいけないということだと思うんですけれども。

すみません、次のもう一つは、この寄附講座開設、これについてちょっと教えてもらいたいんですけれども。

○鈴木委員長 小林保健センター所長。

○小林保健センター所長 ただいまの御質問にお答えいたします。

寄附講座につきましては、大学のほうに寄附をするというような形でお金を出しまして、地域医療を研究するというような名目で、医師の方にこちらの市のほうに来ていただきまして、実際には医療機関において診療などをしていただきながら、地域医療について研究をするというような事業となっております。

○鈴木委員長 木本委員。

○木本委員 ちなみに実績としてはどういった状況なんですかね。

○鈴木委員長 小林保健センター所長。

○小林保健センター所長 ただいまの御質問にお答えいたします。

こちらの制度につきましても、現在まだ制度を活用して医師の方に来ていただくというような事例はございません。

○鈴木委員長 木本委員。

○木本委員 そうですね。そうすると、メニューをつけてもなかなかね、活用されないとなってしまうと、予算をつけても、これ意味がなくなってしまうので、そこら辺をどういうふうにやっていくかというのは、医師不足が全ての根本原因だと思いますけれども。ぜひ今年はですね、実績が出せるように御尽力いただければというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。

私からは一旦以上です。

○鈴木委員長 ほかにありますか。

田口委員。

○田口委員 この保健福祉部のほうで、部門別でやったほうがわかりやすい——保健福祉部のほうで聞きたいんですけれども、ページ数がないページなんだけれども、民生（児童）委員というのがありましたね。そこで、説明が先ほどありましたが、3年に一度の一斉改選だと、今年は。民生委員の選任に当たっては、議会からも充て職で入ったり、ありましたよね、その委員会みたいな。そこにも出たことがあったわけなんですけれども、非常に各地域になり手がいないということで、そういう中でお聞きしますが、今年一斉改選ということで、これ年齢制限は70歳でしたか、75歳、それに該当する方がどのくらいいるんですか、これ。まずは。

○鈴木委員長 小山課長。

○小山福祉事務所参事兼福祉総務課長 ただいまの田口委員の御質問にお答えしたいと思います。

今年3年に一度の民生委員の改選がございまして、一応年齢制限ということで、茨城県の社会福祉審議会のほうで資格要件ということで、75歳を定年ということで設定をしております。今現在、水戸市の民生委員、児童委員は定数424名となっております、75歳を超える方についての数字は今日、すみません、持ってきてはいないんですけれども、おおむね3年に一度の改選ですと、定年と自己都合により退職ということで、約3分の1の方が3年に一度かわっておりまして、3年に一度でありますけれども、百二、三十名の方が退職されるんですけれども、そのうち100名ぐらいの方が定年を迎えるのではないかなと思っております。

○鈴木委員長 田口委員。

○田口委員 この選考というか、なっいただく方というのは、地域にお任せ、そこで最終的に決定するん

でしょうけれども、地域にお願いをしながら選任してもらっているというような形が現実なのかなという気がするんですけども、なかなかそのやり方というの、一番いいことなんでしょうけれども、非常に相対でどうだろうとか話したりとか、あと、組織的にそういう地域でやっている場合もあるかもしれませんけれども、非常に難しいのがこれからあるような感じがするのかなと思うところなんですけれども、何か対応とか、水戸市では何かそれらに関して、地域から吸い上げてもらうのに何かをやっているんですか。この予算というのは、おおむねどんなものに使う予算なのかな、この民生（児童）委員活動というのは。

○鈴木委員長 小山課長。

○小山福祉事務所参事兼福祉総務課長 ただいまの御質問にお答えします。

民生委員に関する予算につきましては、民生委員連絡会などへの補助とかそういったものが主なものなんですけれども、今年は3年に一度の推薦会ということで、水戸市の民生委員推薦会の委員の報酬とか、各地区の地区推薦会の委員さんの報酬などの予算として充ててございます。

あと、市のほうの働きかけということなんですけれども、水戸市の市の推薦会で各地区の委員さんを委嘱をしていただいているんですけれども、各地区の委員さんを基準として、地域住民の代表の方とか、女性会の方とか、学校関係者、PTA、子ども会など、そういった方々から地区推薦会の委員として選出をいただいております、うちのほうといたしましては、今年は一斉改選ということもございまして、今年の2月ぐらいから住みよいまちづくり推進協議会を初め、女性会とか高齢者クラブ、学校長会などに対しまして、各地区での後継者の推薦について御協力いただくように対応してきたところでございます。

以上でございます。

○鈴木委員長 田口委員。

○田口委員 今、民生委員に対しての支援とか補助というのがありましたけれども、民生委員というのはボランティアでしたよね。全くボランティアなんですか、これは。そこらが非常に何か大変だなという気がするんですけども、それは国で定められているのでそうするほかはないのか、あるいは市独自で何か対応できるのかだけ最後にお聞かせください。

○鈴木委員長 小山課長。

○小山福祉事務所参事兼福祉総務課長 ただいまの御質問にお答えいたします。

民生委員につきましては、無償のボランティアということで、報酬というものはないんですけれども、交通費とか連絡の電話代など、費用弁償という形で、水戸市と県のほうから年間で10万円ほど一応、補助というか費用弁償として出して――1人当たり10万円の費用弁償を出しております。

○鈴木委員長 よろしいですか。

ほかにございますか。

土田委員。

○土田委員 すみません、簡単なことだけ。子ども課さんのほうで、5番の女性相談員と6番の家庭児童相談員さんというのは何人ぐらい配置されているんですか。

○鈴木委員長 柴崎課長。

○柴崎福祉事務所参事兼子ども課長 ただいまの委員の御質問にお答えいたします。

子ども課にそれぞれ2名ずつ計4名を配置してございますが、嘱託員という身分でございまして、交代勤務、1人当たり職員の5分の3の日数で勤務いただいております。

○鈴木委員長 土田委員。

○土田委員 そうすると、1日1人いるという感じですか。

○鈴木委員長 柴崎課長。

○柴崎福祉事務所参事兼子ども課長 おっしゃるとおりで、毎日いずれか、女性相談員、家庭児童相談員1名ずつはいるような形で配置しております。

○鈴木委員長 土田委員。

○土田委員 すみません、私も初めてでよくわからなかったんですけども、この相談員さんがそれでは少ないのではないかなというように、いろいろDVとか虐待相談なんかで負担が大きいのではないかなという心配をしているんですけども、その辺、増員していく要望を出すとかそういう考えはないのか。

○鈴木委員長 柴崎課長。

○柴崎福祉事務所参事兼子ども課長 ただいまの御質問にお答えいたします。

女性・DV相談及び家庭児童相談業務全般の部分でございますが、体制を強化するということは順次拡充してきているところでございます。市町村によりまして体制にばらつきがございますが、水戸市に関しましては相談係という一つの係を持っておりまして、その中でケースワーカー4名、相談員4名、子育て支援係と、課全体で対応しているというようにございますので、相談員は相談の最初の入り口として、電話や窓口相談に応じるというようにございまして、組織的に対応していく中で充実を図っていきたいと考えております。

○鈴木委員長 土田委員。

○土田委員 すみません、もう一つだけ。保健所準備課さんにお聞きしますが、私もこちら初めてのことでもよくわからないんですけども、水戸市の動物愛護センター整備が進められていますけれども、現在どんな状況で、今後どんな動きがあるのかというのが1つと、あともう一点、県から前田技監がいらしているのでもちょっと言いにくいんですけども、総務環境委員会のときは人事のほうとやりとりしていたんですけども、県の動物指導センターに勉強に行っていますよね、これから水戸の動物愛護センターで働くことになる獣医師さんが今、茨城県で研修をされていると思うんですけども、こう言ったら悪いんですけども、茨城県は殺処分数のワーストが続いていたりとか、全国的に見て割と動物行政が優れているところだと思うんです。むしろこれから水戸市で新しくつくっていったときに、その優れている茨城県に学ぶよりも、もっと先進的に進んでいるところに派遣して研修させるという考えはなかったのかということ、総務環境委員会では言っていたんですけども、その点、そうした広く全国的に進んでいる行政からどんどん取り入れていくという考えはあるのかどうかというところを御説明をお願いします。

○鈴木委員長 小林課長。

○小林保健所準備課長 ただいまの御質問にお答えいたします。

まず1点目の今の整備の状況なんですけれども、現在、旧療育センターの跡地で、これまで発掘調査をやっておりまして、今、工事の契約が進んで7月から、大体7カ月から8カ月の工期で工事が始まるという

ような予定で進んでおります。

それから、先ほど県の研修の状況なんですけれども、現在2名が動物指導センターのほうに行っておりまして、研修、業務の習得に当たっているところでございます。そもそも水戸市の中核市の保健所を含めまして業務全体につきましては県の支援を受けるということで、ずっと県との調整をしながらやってきたところでございまして、動物愛護関係の計画等も県の上位計画というものがございまして、そういった事業の中で水戸市の事業をこれから検討していくというところでございます。動物愛護センターにつきましては、基本構想ということで、整備の基本的な考え方をまとめていく上で今現在進めてきているというところで、他の中核市の状況なども把握しながら今の動物愛護センターの整備を進めているところでございます。

以上でございます。

○鈴木委員長 土田委員。

○土田委員 わかりました。

一応、もう来年4月に開設して動き出すわけなので、今7月、時間もない中でスピードアップが必要だろうと思うので、それをこの委員会にどんどん出していただけたらと思います。

〔「いただけるんじゃないかと、俺らが進めるか進めないかと思うんだよ。」〕

〔「執行部だけの問題じゃないから」と呼ぶ者あり〕

○土田委員 なので、要望になっちゃいますけれども、本当に申しわけないんですけども、残念な茨城県の動物行政をそのまま引き継がないで、水戸市独自でいい旗印を上げていけるように頑張っていただきたいということを要望します。

○鈴木委員長 ほかにありませんか。

後藤委員。

○後藤委員 丁寧なお答えありがとうございました。

教育委員会にお聞きしたいと思います。

〔「保健福祉部だけ先に終わりにして」と呼ぶ者あり〕

○鈴木委員長 保健福祉部のほうで何かありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○鈴木委員長 じゃ、続いて消防のほうでどなたかありますか。

田口委員。

○田口委員 ちょっと1点聞きたいんですけども、最後のページでAEDのことがありますが、このAEDは、全てのコンビニに順次整備するというのと、その上の2番では応急手当の普及啓発ということで約1,000万円近い予算が出されている。これ連携があるのかというのと、このコンビニに対応するんでしょうけれども、コンビニというのは結構開店、閉店があるみたいなんですね。そういうときの対応というのはどんな感じで契約されているのかだけを聞きます。

○鈴木委員長 石田課長。

○石田救急課長 ただいまの御質問にお答えします。

まず、ちょっと最初、これ聞き取れなくて申しわけございませんが、コンビニの閉店等の対応でございま

すが、本年度、ファミリーマートとミニストップに設置を考えております。予算は54店舗ということで予算どりをしましたが、やはり3店舗ほど閉店がございましたので、今回の契約は50店舗というような対応をしております。また、昨年度、セブンイレブン60店舗で10月に設置しましたが、その年度内に3店舗ほど新しくオープンしました。それにつきましては、契約した予備の3台を充てまして対応しているところでございます。

確かに閉店や新しく開設するところがございますが、コンビニの担当者と情報、連絡を密にしまして、閉店、開店等について柔軟な対応をしているところでございます。

以上でございます。

○鈴木委員長 田口委員。

○田口委員 例えばコンビニの中のセブンイレブン、それは各お店と話し合いをしながら進めているの、これ。セブンイレブンの会社と契約して進めているんじゃないくて、各何々店、各お店との話し合いでこのAEDを設置しているんですか、これは。

○鈴木委員長 石田課長。

○石田救急課長 コンビニのAED設置につきましては、まず、コンビニ等のAED設置に関する協定を結ばせていただいております。その中で対応しているところでございます。また、コンビニの増減につきましては、市内のコンビニを統括している事務所等がありますので、そこと連絡をとり合って、ふえたり減ったりというような情報を集めて対応しております。

以上です。

〔「契約の統括本部でやってんだっぺよ。そこを言わなければだめだ」

と呼ぶ者あり〕

○田口委員 これ、先ほど質問をしたわけですがけれども、その応急手当普及啓発事業というのが約1,000万円近い予算が組まれて、それとこのコンビニのAEDも何か関連性があるのか。AEDに関してコンビニに対してどのような指導をしたり何かして——昨年度の実績を踏まえて説明いただけますか。あと、AEDの効果というか、昨年度設置した中でのそういう事例があったかどうか。

○鈴木委員長 石田課長。

○石田救急課長 ただいまの御質問についてお答えします。

まず、応急手当普及啓発事業の委託につきましては——失礼しました。昨年度、応急手当講習会を445回開催しまして1万1,929人の方に応急手当の講習を受けてもらいました。それとですね、あわせてそのときにAEDの使い方なんかも講習をしているところでございます。

それと、コンビニの従業員に対しての応急手当の講習でございますが、今、ファミリーマート、ミニストップへの設置に向けて講習を実施しているところでございます。昨年度は講習会という形で集めてやったんですけれども、なかなか集まらないということで、今年度は店舗のほうにシフトの交代時期を見据えまして、そういった店舗にお邪魔して講習をしているところでございます。ですので、8月に設置を考えておりますが、それまでには教えていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○鈴木委員長 実績はいかがでしょうか。石田課長，実績について何か。

〔「昨年度AED使ったのか，実績があるのかなのか」と呼ぶ者あり〕

○石田救急課長 失礼しました。AEDの実績につきましては，電気ショックをかけた事例はございませんが，本年度に入りまして50代の男性が胸の痛みを訴えましてコンビニに駆けつけました。そのときにコンビニのAEDを店内にいた病院の看護師さんが対応してくれました。そして，救急隊が駆けつけて病院に搬送しましたが，その方は亡くなってしまいました，活用という意味ではそういったことがありました。

以上です。

○鈴木委員長 よろしいでしょうか。

消防に関してはほかにありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○鈴木委員長 それでは，教育委員会についての質疑を行いたいと思います。

質問のある方はいらっしゃいますか。

後藤委員。

○後藤委員 後藤です。よろしくお願いします。

7ページの民間保育施設整備事業のところで，防音壁整備というところがあるんですけども，これはあれですね，保育園でざわざわしているのを静かに少し，外に聞こえなくするようにするために，室内から外に出ないようにするというやつだと思うんですけども，今……

〔「室外設置だよ」と呼ぶ者あり〕

○後藤委員 室内ですよ。

〔「室外設置だよ，防音壁だもん」と呼ぶ者あり〕

○後藤委員 外ですか。じゃ，外で遊んでいても，その周りに住んでいる人たちに余りうるさくならないようにするという。

〔「高い塀を建てるということでしょう」と呼ぶ者あり〕

○後藤委員 ありがとうございます。ごめんなさい。何もわからずに申しわけございません。そういうことなんです。わかりました。ありがとうございます。

じゃ，これ2カ所設置したということですが，新しく設置した2カ所についてお伺いしたいと思います。

○鈴木委員長 鈴木課長。

○鈴木教育委員会事務局教育部参事兼幼児教育課長 ただいまの後藤委員の御質問にお答えいたします。

2カ所の予算が今年度ついております。今から募集ということになっておりますので，防音壁につきましては外に設置するもので，子どもの声が反射して内側に入るようになる，こういう感じで……

〔「高速道路についている」と呼ぶ者あり〕

○鈴木教育委員会事務局教育部参事兼幼児教育課長 そういったイメージをしていただければと。

○鈴木委員長 後藤委員。

○後藤委員 実際にそれはやっぱり効果はありますか。あとは、実際今使っているところも何カ所かあると思うんですけども、何カ所ぐらいあるのかお聞きたいです。

○鈴木委員長 鈴木課長。

○鈴木教育委員会事務局教育部参事兼幼児教育課長 昨年度もこちらのほう整備しまして、2カ所ほど今設置しております。効果のほうはあるということでございます。隣の方からの苦情がなくなったというようなことを聞いております。

○鈴木委員長 土田委員。

○土田委員 私も1つだけです。総合教育研究所さんのところで、5番目の特別支援教育の充実のところに、出ている特別支援教育支援員の配置についてお伺いしたいんですけども、これはどういう形で何人ぐらい配置されているのかを教えてください。

○鈴木委員長 小川副所長。

○小川総合教育研究所副所長 ただいまの御質問にお答えいたします。

特別支援教育支援員につきましては、知的障害、肢体不自由、発達障害、その他特別な支援を必要とする子どもさんに対して配置しております。現在幼稚園13園に15人、小学校28校で107人、中学校2校で3人、義務教育学校1校に2人という児童、生徒を対象に配置しているものでございます。

○鈴木委員長 土田委員。

○土田委員 すみません、そうすると、お子さんに対しての数ということですね、学校にということではなくて。そのお子さんの教室に何人という形。わかりました。

○鈴木委員長 ほかに。

田口委員。

○田口委員 6ページの学校給食で、今後単独調理校が29校のうち10校を委託だということけれども、具体的に拡大していくということでありますが、民間委託に関してはいろいろ協議するまでにあったという感じはするんですけども、今後段階的に拡大していくというのには、今この民間の業者というのは——ちょっと勉強不足でわからないんですけども、それぞれ何社か入っているんですか、1つの委託先が全部やっているということではないでしょう、これは。その辺を教えてくださいたいのと、それから、やっぱり学校給食は皆さんも御承知のように、提供する食材を含めて教育の一つということになるんであって、そういう民間委託の場合にも栄養士さんが献立を考えているかもしれませんけれども、そういう対応もどういうふうになっているのか。民間委託のそういう委託業者と、それから地場産というか、そういう食育に関しての対応を業者さんはどのようにやっているのか。それだけ。

○鈴木委員長 大和課長。

○大和学校保健給食課長 田口委員の御質問にお答えいたします。

現在、10校で民間委託しておりまして、6社、それぞれ重複しているところもありますが、複数となっております。

〔「入札ですね」と呼ぶ者あり〕

○大和学校保健給食課長 入札です。

あと、業者を選定するに当たりまして、各学校に栄養士を配置しているところを業者として選定しております。献立の作成とか食育の指導とかに関しては、全て栄養士とか学校で行っておりますので、民間委託のほうは調理業務を委託、あと片づけとかそういったものを委託しておりますので、委託しても前と変わらない給食を提供しております。

あと何でしたか。

〔「地産地消」と呼ぶ者あり〕

○大和学校保健給食課長 地産地消につきましては、今年度が農業技術センターのほうに3,000万円ほど、水戸市産のものにかかるお金についての予算を計上しております。1回100円ほどで15回くらい水戸市産のものを提供できる予算を活用して、現在、水戸市産のネギとか、あとみとちゃん献立の中で納豆とか、あとみとちゃん餃子とかパプリンパンとか、いろいろ水戸市産の農産物だけではちょっと数のほうが給食を賄うのには足りないということで、一応加工品などに力を入れて、栄養士のほうを中心に開発しております。

以上です。

○鈴木委員長 ほかにございますか。

袴塚委員。

○袴塚委員 今、給食の話が出たんで、ちょっと給食の話をしますが、中学校の給食が非常においしくない。小学校を卒業した人が中学校へ行くと、残食が多くなる。その最大の理由はおいしくないと。現実ね、いろんなところでそう言っていますから、それは間違いなくおいしくないんだと思う。給食、食をつくるというのは、要は同じ献立でやってもね、つくる人、それから調理の仕方、これで味が変わるんですよ。今、中学校の受託をしている会社がどうも余り上手ではないのか、もしくはその指導がよくないんじゃないか、こういうふうなことがあります。もう一つは、民間委託をこれから進めていくということなんだけれども、要するにその味の基準というのはその人その人によって違うから、おいしく感じる人もいれば、おいしくなく感じる人もいて、これは当然だと思うけれども、民間委託をしたところがおいしくないということになると、やはりそれはね、何らかの原因があるんだというふうに思うんですが、この辺については、担当部署のほうには何も入っていないんでしょうか。

○鈴木委員長 大和課長。

○大和学校保健給食課長 袴塚委員の質問にお答えいたします。

新たに民間委託をした年については、毎年検証会を開いてまして、民間委託にしてから味がどのように変わったかというのを関係者を集めて試食会をしております。その中で特別おいしいという問題は特に上がっておりません。中学校のほうは調理場から配送しております。その配送するのにも、多分小学校はすぐ直接出せる。中学校の給食は配送して運んでいくので、その過程で何か違いがあるのかなとは少し感じるんですが、それについても調理のほうを工夫しております。ある程度かために、野菜とかもかたい状態で持って行って、保温器に入れて持っていきますので、温かいままで食べるころにちょうどいいやわらかさになるということも考えていろいろ工夫しております。おいしくないという意見は私の耳には今のところ入ってこないんですが、一応そういう意見があったらば、いろいろ考えてみたいと思います。

○鈴木委員長 袴塚委員。

○袴塚委員 とりあえずね、小学校を卒業した人が中学校へ行くと残食がふえているというのは間違いないんで、それは絶対調査していただきたい。

出前すればおいしくないのはよくわかるんだよ。我々も出前をとるから、それはその場所で食べたよりはおいしくなくなるのはわかるけれども、それがね、その学校給食がおいしくない、もしくは何らかの残食につながる。残食につながれば当然、熱カロリーも栄養価も不足するわけですから。だから、食育の観点からいっても、それは改善しなくちゃならない大きな課題なんで、そこのところは、食べて評価する人がいるんだったらば、やっぱりそういう条件で食べなければだめだよ。それで味の評価をしないと。つくった後のを食べて、持っていってところで食べていなかったら、これ評価の値にならない。だから、同じ条件で評価していただきたいと要望しておきます。

それから、10月から消費税が10%に上がりますけれども、それでなくとも学校給食は赤字財政であって、直接納入や学校給食費から外してやっていただいたり、いろんな努力をしていることは事実ですけども、これらについてはどんなふうこれからお考えをいただくのか。

というのは、これまでの論議の中では消費税が上がるときには給食費の改定も含めて考えていかなければ、完全給食、おいしい給食が出せない、こういうふうな論議も今まであったわけですよ。そういう流れの中で、今回2%食材費が上がるということになると、今の軽減税率がどうかかわるかという問題はありますけれども、しかし、やはりこういう機会を逃してしまうとなかなか改善ができない。上げることが目的じゃなくて、やっぱり子どもたちがおいしく食べられる、もしくは栄養価がきちんととれる。油通しをして熱量だけ上げるといって調理ではなくて、食材そのものから熱量もとれる、カロリーもとれる、おいしさもとれる、栄養価もとれる。こういう調理に変えていかなければいけない。そういう部分についてはどのように考えていられるのかちょっとわからないんですけども、もしこれから考えるということだったらこれから考えますで結構です。今急に質問していますから、それは結構ですが、そういう問題が1つありますよ。

それから、歴史文化財課の中で、ヒカリモについてちょっとお伺いをさせていただきたい。ヒカリモについては、これまでと同じ、前回と同じ説明を今日もしています。ここね、何回かもう同じ説明になっちゃっているんだよ。ヒカリモについては培養結果も何も出ていない、成果も出ていない。それで、あそこが危険だから、あそこには行けないんで、外に持ってきて観光資源の一部としても見られるようにしますよと、こういうことをしている。しかし、そういうことをしている割には予算が210万円しかないんだ。こういう予算づけで、果たしてどうなんですかということはこれまでも何回も私は申し上げているんだけど、一向に改善されていない。これについては、本気でヒカリモをやる気があるのかないのかね。これもう伊藤前議員が質問してから、もう十数年たちますから。私も質問していますし。もうそろそろ、やっぱりやるんならばきちんとやる。やらないんならね、毎年210万円ずつ垂れ流して、もう10年やったら2,100万円ですよ、これ。千葉なんかでは研究に研究を重ねて、1回消えたヒカリモを復活させるまでやっているわけだ。だから、やりようによっては幾らでもこれできるはず、今の科学、それからいろんな技術の粋を集めれば。

いまだにそういう環境が整っていないということについては、ちょっと私は疑問を感じているんだけど

も、その辺についてはどのように考えていられるのか。

○鈴木委員長 先ほど、まず給食……

○袴塚委員 給食、もしなければいいよ、考えがあるんであれば答弁していただきたい。

○鈴木委員長 大和課長。

○大和学校保健給食課長 袴塚委員の御質問にお答えいたします。

給食費のほうは平成17年度に値上げして以来ずっと据え置きが続いておりますが、やはり物価がどんどん上がっていて、栄養価を保つというのも難しいということで、適正な価格について検討してまいります。

○鈴木委員長 白石課長。

○白石歴史文化財課長 ただいまの袴塚委員の御質問にお答えいたします。

本日の主要事務事業の概要の説明でございますが、こちらの内容につきましては、今年の3月に御説明させていただいた内容並びに先日の新人議員さんに説明した内容と同じ内容で御説明をさせていただいております。

再度同じお答えになってしまうかもしれませんが、今までヒカリモにつきましては100万円の予算をいただいておりますが、研究してまいりましたが、今年の3月の予算計上のときから予算を倍増して200万円ということでやらせていただいております。今後関係自治体との勉強会も開催しながら、ヒカリモにつきましては積極的にPRを進めるとともに、専門家の御意見などをいただきまして、培養の研究を続けてまいりたいと考えております。

予算につきましては倍額となっておりますので、我々としては一生懸命やっていると考えております。

以上でございます。

○鈴木委員長 袴塚委員。

○袴塚委員 いや、私はね、歴史文化財課が一生懸命やっていないと言っているわけじゃないんだ。じゃ、100万円から200万円にふえたでしょうと。その100万円はどういう使い道のためにふやしたんですか。その研究する——この培養するための費用というのは——例えば民間に委託したって、幾らでも培養できますよ、今ね。そういう機械がありますから。だから、その辺の何かフラスコとかビーカーとか試験管の中でそんなちまちまやっていたんでは、これいつまでたったってできないですよ、培養が。だから、そういう部分については、やっぱりしっかりやって、ヒカリモはね、全国でも、日立には雨が上がるとヒカリモが出るとかね、いろんな条件のところがありますよ、それは。だけれども、やっぱりそういうところではなくて、常時光っている池が水戸にはあるわけですから、それを一つの歴史的な文化財なのか、観光的なものにするのか、それは別にしてもね、もう少ししっかりやっていただくような形にしていきたいなというふうに思っていますので、しっかりやっていないということじゃないですからね、課長さん。ちょっとこっち見て。あのね、やっていないと言っているわけじゃないの。やるんだっつたらば、もっと予算をつけてしっかりと成果の出るようにやってくださいと、これお願いしているんですよ。

それからもう一つはね、開放学級のモデル事業で梅が丘小学校を民間委託しましたと、こういうことでした、今年度からね。3,360万円の予算をとっているんだけど、現在までの状況についてはどのよう

な状況になっているのか、ちょっとお伺いさせていただきたい。何か改善したとかというのがあるでしょうか。

○鈴木委員長 菊池課長。

○菊池教育委員会事務局教育部参事兼放課後児童課長 開放学級の委託につきましての御質問にお答えいたします。

現在、梅が丘小学校で開放学級の民間委託を契約しておりまして、予算は3,360万円でございましたけれども、実績といたしましては2,860万円程度ということでございます。受託者がシダックス大新東ヒューマンサービス株式会社ということでございまして、昨年度末33人の待機児童なんですけれども、今年度から学級数も4つにふやしまして、待機児童がない状況になっております。

それから、会社からの支援員に対する各種指導も研修といいますか、指導もありまして、おおむね良好に学級運営を進めていただいていると考えております。

○鈴木委員長 袴塚委員。

○袴塚委員 今、学級数をふやしたというお話ですけれども、それは公設でふやしたんですか、それとも委託先がふやしたんですか。要は、今、待機児童がいるというのは、入れ物が足りないとかということで待機児童ができちゃっている例というのがいっぱいありますよね。今1学級ふやしましたよということは、要するに梅が丘小学校の中に余裕教室が1個できたんで、そこで吸収したのでふえたのか。民間委託をしたら、創意工夫の中でふやせたということであるとすればだよ、何も民間委託じゃなくてもふやせるんだよね。結果的にはそうでしょう。だから、その辺はどんなふうな状況で4クラスにふえたんですか。そのために33人が待機児童がゼロということになったんですかということをちょっと聞かせてもらえればありがたい。

○鈴木委員長 菊池課長。

○菊池教育委員会事務局教育部参事兼放課後児童課長 梅が丘小学校の状況でございますけれども、昨年度が2クラスのところ、今年度は4クラスになっております。それは委託業務を発注する際の仕様の中で4クラスにするということで、主に場所はもちろん必要なんですけれども、今現在、喫緊の課題となっておりますのは、支援員、人の確保がかなり難しい状況になっております。民間委託した結果、そちらの組織力をもって、その4クラスを運営するに足る支援員を配置することができているという状況と考えております。

○鈴木委員長 袴塚委員。

○袴塚委員 そうすると、今、水戸市がやっている開放学級の中で、どうも待機児童が多いよという地区については、入れ物はあるんだけど、マンパワーが求められないために待機児童ができているという解釈でいいんですか。

○鈴木委員長 菊池課長。

○菊池教育委員会事務局教育部参事兼放課後児童課長 開放学級を運営するためには人と場所の2面が必要となります。場所が足りないところも確かにございまして、今年度は稲荷第一小学校に専用棟を建設するというので、場所の確保を進めると。それから、学校内の余裕教室を使ってやるということもございまして、そこに関しては支援員が一学級ふやすほど——ローテーションでやりますので、一学級をふやすためには常時3人必要と考えるんですけれども、そこまでの人が集まらない状況というのがまだあるとい

うことです。

○鈴木委員長 袴塚委員。

○袴塚委員 開放学級はこれからの働き方改革ほかさまざまな環境の中で、必然的に多くなる事業だというふうに思っていますし、市長の答弁でも6年生までの待機児童ゼロを目指しますよと、こういうことをおっしゃっているんで、民間委託という手法は一つの手法だと思います。その中で余裕クラス、いわゆる校舎を使う、単独の開放学級等があれば、民間委託をかなり積極的に進められると思うんですけども、余裕教室等ということになると、学校管理等の問題が出てくるのではないかというふうに思います。

いずれにしてもそういうものを活用して、さらに働く若いお父さん、お母さん方の助成策という中では、開放学級の解決というのは喫緊の課題だというふうに思いますので、ぜひしっかりそういった環境を見詰めながら努力していただきたいというふうにお願いします。

それから、就学援助事業と、それからこの生保がやっている教育扶助、これはすみません、どちらに聞いたらいいかわからないんで、ちょっとお聞きしたいんですけども、これは生保がやっている教育扶助というのは、いわゆる貧困からの脱却ということで、生保のお子さん方を集めてやっている事業がありますよね、保健福祉部では。それとこれはどんなふうに違うのか。教育でわかりますか。

○鈴木委員長 櫻井課長。

○櫻井生活福祉課長 ただいまの教育扶助についてお答えいたします。

生活保護での教育扶助につきましては、小学校、中学校にかかる場合の給食費であつたりとか、あとは教材費とか、そういったものに充てる扶助となっております。

○木本委員 いや、これは同じだ、この就学援助事業も給食費、遠足費、修学旅行費や毎日の学習に必要な学用品及び通学用品と、同じなんだけれども、その違いは何なのかという。

○袴塚委員 違う、今聞いているのは、生活福祉課から出ている教育扶助と、それから教育委員会がやっている就学援助事業というのは、何か似ているんじゃないのと。私が個人的に考えるのは生活福祉課の教育扶助についてはね、今、負の連鎖から脱却するんだということで生活保護の方々を対象に何力所か今ふやしながら、学習支援していますよね。これが生活福祉課がやっている教育扶助の予算なのか、それとも——今の説明だと、かぶっちゃう。だから、何かそこはちょっと目的があって違いがあるんじゃないかというふうに思ったんで、その違いをちょっと教えていただければ、勉強不足で申しわけないんですけども、ありがたいなと思ってお聞きしている。

○鈴木委員長 櫻井課長。

○櫻井生活福祉課長 生保での教育扶助につきましては、生活困窮者の学習支援事業とはまた別で切り離しているものでございます。

○鈴木委員長 木本委員。

○木本委員 対象者が同じ生活扶助で給食費だとか毎日の学習に必要な教材で支給するじゃないですか、教育扶助。片や今回の就学援助事業でも同じものが対象の支給になるんですよ。そうすると重複するんじゃないかという話なんですけれども、これは重複しないんですか。それとも……

○袴塚委員 何か基準が違うの。

○木本委員 段階的にもう上積みなのかということです、何の違いなのか。

○櫻井生活福祉課長 大変申しわけありませんでした。これは、生保の場合は生活保護のみの対象でございまして、教育のほうでやられているのは準要保護世帯ということでまた別な対象となっております。

○鈴木委員長 木本委員。

○木本委員 そうすると、ごめんなさい、教育扶助ではもちろん生活保護の対象者になってしまっている人に対して、この教育扶助、詳細としてはほとんど一緒なんですけれども、就学援助事業に関しては、経済的理由により就学が困難と見られる世帯というのは、生活保護ではない経済的に厳しい家庭、それはどういう人ですか。その差が。

○鈴木委員長 鎮目課長。

○鎮目学校管理課長 準要保護者というのは、生活保護を受けていない方をまず対象にしております。その中で、幾つか項目があるんですけども、まず今おっしゃったように生活保護の停止または廃止を受けた方、あとは市民税の非課税または減免、個人事業税や固定資産税の減免を受けた方、国民年金保険料の減免を受けた方、国民健康保険税の減免、または徴収の猶予を受けた方、児童扶養手当を支給された方、保護者が日雇い労働者の方、保護者の職業が不安定な方、経済的理由により学校納付金の納付状況などが悪い方等に当てはまる方を認定の基準として設けております。

○鈴木委員長 木本委員。

○木本委員 そうすると、今御説明していただいたカテゴリーがいっぱいあったじゃないですか。そのどれかに該当すればこれが得られるんですか。そうすると、かなりカテゴリーとしてはこれ広過ぎちゃって、その減免を受けた云々という方はあれですけども、最後のほうの報告だと、日雇いだとか、あとは何か支払いが不安定な方とかというのは極めて基準としては曖昧なような気がするんですけども、ここも、それでも出すんですか。

〔「税収何百万円以下とかと決まっていないの」と呼ぶ者あり〕

○鈴木委員長 鎮目課長。

○鎮目学校管理課長 そうです。あとは、生活保護法による保護基準により算定した額が1.5倍未満の方と……

〔「生活保護世帯の収入の1.5倍より上の人は受けられない」と呼ぶ者あり〕

○木本委員 受けられないんだけど、今のカテゴリーに該当すれば受けられるということですか。

○袴塚委員 そういうカテゴリーがあるけれども、最終的にはそれは1.5倍という網がかかっているから、それ以上超えちゃうと受けられないよということを言っているの。

○鎮目学校管理課長 そうです。

○鈴木委員長 よろしいでしょうか。

木本委員。

○木本委員 そうすると、受けられるということがわかったんですけども、1.5倍未満ですと。詳細としてはそういうわけですが、教育扶助の詳細と内容としては変わるんですか、これ。内容は一緒なんですか。

いや、何が言いたいかという、1.5倍未満だとしても、その人がちょっとやれば保護世帯になってしまいうわけじゃないですか、場合によっては。

○袴塚委員 そこからふえちゃう場合もあるんだな。

○木本委員 脱却できればもちろんそれはそれでいいんですけども。ですから、そこが……

○袴塚委員 どういう算定をするかだな。

○木本委員 そうですね。というのと、その差にどういうふうな意味合いにその1.5倍の差を設けたのがちょっとよくわからないんだよね。

○袴塚委員 それ該当しちゃうと年間を通じて該当しちゃうのか、それとも何か調査方法があって、その調査の基準がね、例えば毎月見直しているんですよとか、どういうふうにその調査をしているかだね、判定を。

○木本委員 何が言いたいかといいますと、どっちにしろ生活保護法という法律があって、それでは必ず保護されるべき世帯があるわけであって、この就学援助事業の詳細を見る限り、その1.5倍未満というのが一つの基準になったのがわかったんですけども、ここはなぜそういうふうなものになったのかというのはちょっとよくわからないんです。

○袴塚委員 それで、最終的に部長がまとめたらよかつぺ。もう12時だから、早く終わらないと。

○木本委員 ごめんなさい、いや、要は例えばですけども、調べた結果、実はそういった世帯がすごく多くて、保護には当たらないんだけど、ほぼ保護に近いような世帯がかなりいて、なので、こういった制度を設けましたというんだったらわかるんだけど。

○袴塚委員 火に油を注がないように部長が答弁しろよ。油を注ぐように答弁しちゃったんだ。

○木本委員 それと、その教育扶助との内訳の違い、詳細の違い。

○鈴木委員長 増子部長。

○増子教育部長 就学援助制度についての説明なんです、基本的には生活保護基準の額というのが決まっておりますので、その以前は1.4倍だったんですが、生活保護基準が変更になった際に、今まで受けられていた方が受けられなくなる、そういった階層が出てまいりましたので、それを今まで1.4倍の基準で受けられていた人が生活保護基準が変わったときに受けられなくなるという不利益の方がいらっしやらないように今回、今年の4月からになりますが、1.5倍の基準を設けまして、生活保護基準の1.5倍までは準要保護世帯として、先ほどの遠足費とか学校で使うさまざまな経費がございますが、そういった通学用品とか、学用品、学校給食費、通学費、クラブ活動費とかそういうのがいろいろあるんですが、そういった経費についての援助をしましよと、そういう制度です。細かく先ほど説明がありましたが、基本的には標準世帯の額によって、大体の収入額というのは把握できますので、前年度の収入を基準として学校を通して申請をしてもらいまして、それをきちっと審査した上で認定をして援助をするという形であります。

急激に生活の実態が変わるような家庭もございますので、その際にその資料を提出していただいて、新たに就学援助の対象になることができる、そういった丁寧な対応に努めております。

○鈴木委員長 木本委員。

○木本委員 丁寧な御説明ありがとうございます。

そうすると、これは学校でそれを調査した上で、仮にそういった方が出ますよね、1.5倍未満と、対象者が。

○鈴木委員長 増子部長。

○増子教育部長 これはですね、毎年年度末のころなんですけど、保護者に対して、その就学援助制度についてのお知らせの通知を出しております、そのときにどういった方が就学援助の対象になるのか、どういった申請の方法、必要書類を提出いただくのか、それから収入の基準はどういった形で算定しますとか、そういった細かな、あとは支給方法もですね。そういったチラシを保護者に配りまして、周知に努めているところでございます。

○鈴木委員長 木本委員。

○木本委員 そうすると、それを見た世帯がもしかしたらうちもと思って、学校に申請を行って、学校側が精査するということ。

○鈴木委員長 増子部長。

○増子教育部長 あくまでもその審査を行うのは学校管理課の担当者のほうで行っております。学校を通して事務局のほうにいただいて、そこで認定の作業を行って支給していると、そういうことです。

○鈴木委員長 木本委員。

○木本委員 最後に2つ。これ国の制度ですか。水戸市独自の制度ですか。さっきの1.5倍という基準も含めて、全国の公立でやっている制度なのか。あともう一つ、1,432万9,400円がどのぐらいの対象世帯なのかあわせて最後に聞きたいと思います。

○鈴木委員長 増子部長。

○増子教育部長 生活保護の1.5倍なんですけど、この基準は全国的にもかなり高い基準でございまして……

○木本委員 水戸市独自の基準ですか。

○増子教育部長 水戸市独自の基準です。市町村によってはそれほど高くない基準のところも当然ございます。

○木本委員 制度自体は国、ただ、基準設定は各自治体。

○増子教育部長 国ではやっていますけれども、平成26年のときに1.2倍から1.4倍に上げて、今度1.4倍から1.5倍に上げたわけなんですけど、その1.4倍の当時でも全国的にもかなり高い数字になりました、水戸はこういった就学援助制度についてはかなり、全国的には高いレベルだと思います。

○木本委員 あと、予算の世帯数、対象世帯。

○鈴木委員長 鎮目課長。

○鎮目学校管理課長 平成30年度につきまして1,295名が対象となっております。

〔「児童」と呼ぶ者あり〕

○鎮目学校管理課長 児童、生徒。

○鈴木委員長 ほかによろしいですか。

土田委員。

○土田委員 さっき袴塚委員が、給食のことでちょっとだけなんですけれども、私も地元の子どもたちの話

をよく聞いていて、中学校になったら給食がまずいというのはすごく聞いているので、この子どもたちの意見も聞いていただきたいということです。

もともと私たちは民間委託に反対なんで、この意見は今述べませんけれども、その点、私が話している子どもたちはかなり多いけれども、みんな中学に上がった途端に給食がまずくなったというのは、私も聞いています。

○鈴木委員長 要望でよろしいですか。

ほかによろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○鈴木委員長 では、ないようですので、以上で各課の事務分掌及び令和元年度主要事務事業の概要についてを終わります。

次に、その他に入ります。

委員より何かございましたら発言願います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○鈴木委員長 ないようですので、この件について終わります。

次に、次回の委員会についてでございますが、次回の委員会は明日午前10時に開会し、所管施設視察を行いたいと思いますので、御了承願います。

それでは、以上をもちまして、本日の文教福祉委員会を散会いたします。

御苦勞さまでございました。

午後 零時 6分 散会